第３章 都市の現状把握と将来見通しの分析

３－１　各種基礎的データの収集と都市の現状把握

１．人口の状況

(1)　総人口・DID 人口

●昭和 35 年に約 3.6 万人だった人口は、平成 27 年現在、約 2.7 万人となっており、平成 52 年には約 2.1 万人と予想されている。
●DID 区域は、昭和 45 年に設定されたが、人口密度が経年的に減少し平成 12 年以降 DID 区域は設定されていない。

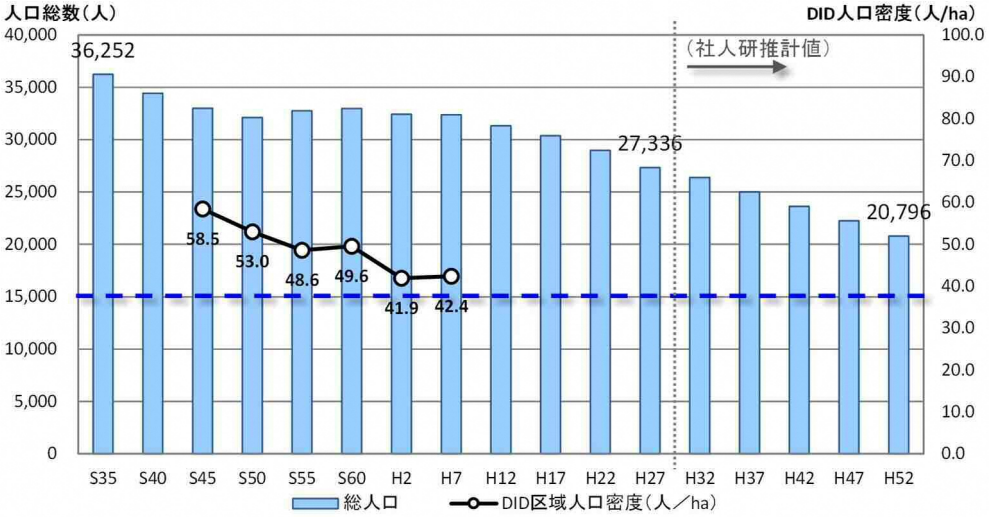


図　DID 人口密度の推移

※DID の密度要件 40 人/ha はネット人口密度
資料：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所資料

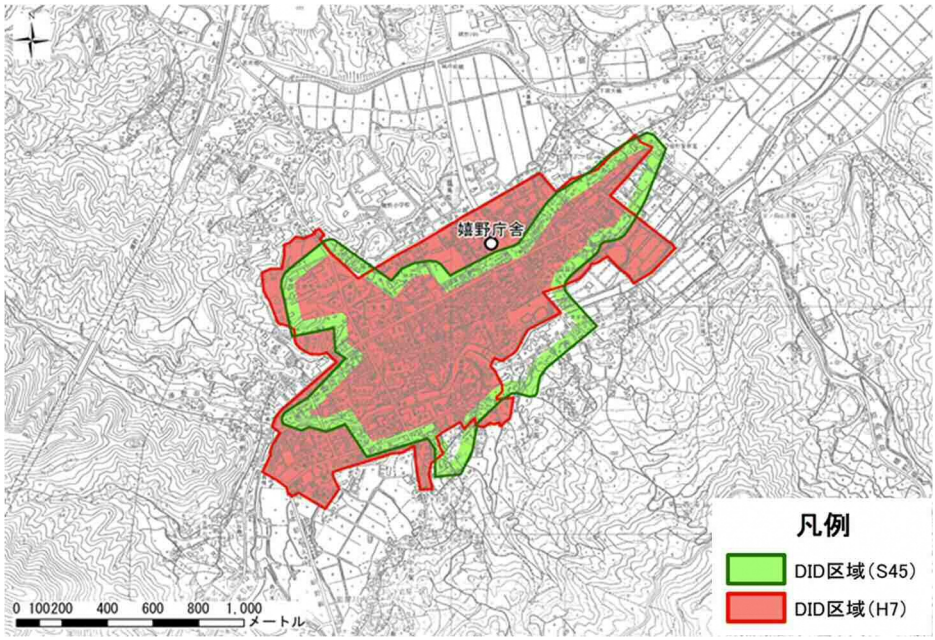
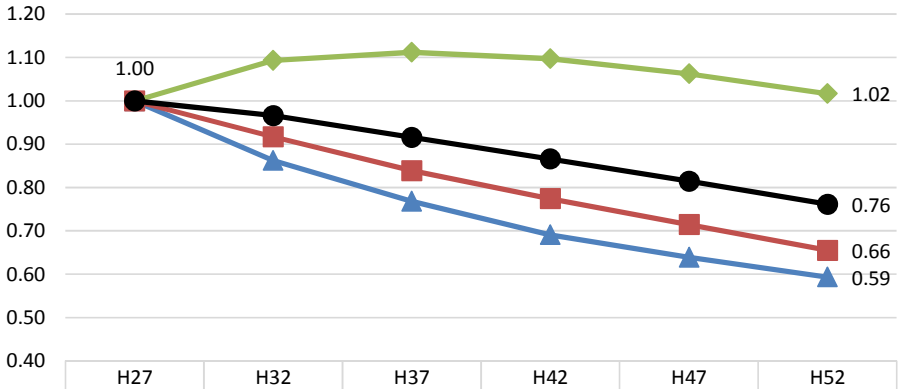


図　DID の変遷　　資料：国土数値情報ダウンロードサービス

(2) 年齢別人口の推移

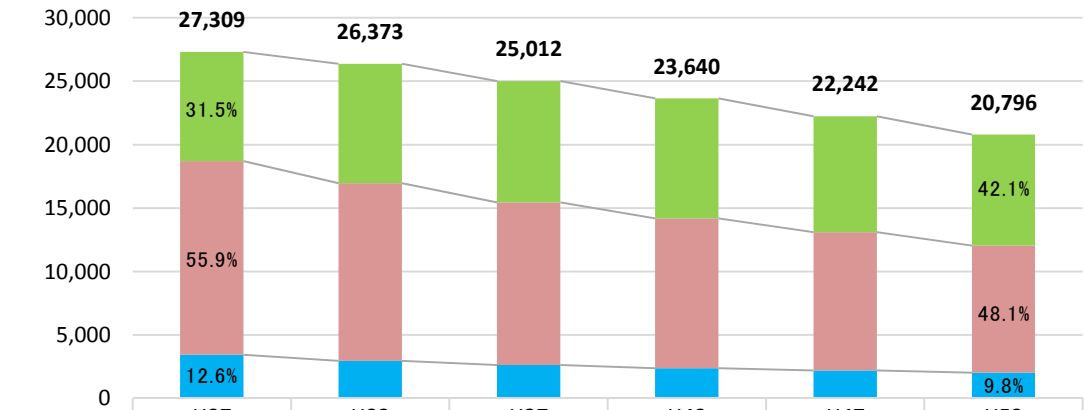
●平成 27 年から平成 52 年までの 25 年間で、全体人口は約８割に減少する。
●年齢別では、年少人口が最も減少し、平成 52 年では平成 27 年の約６割となる。
●老年人口は、平成 37 年までは増加傾向にあるが、その後は減少し、平成 52 年は、平成 27 年と同レベルとなる。他の世代が減少するなかで老年人口はほとんど変わらないため、老年人口の割合は増加し、平成 52 年は 40%を超える。



	H27	H32	H37	H42	H47	H52
年少	1.00	0.86	0.77	0.69	0.64	0.59
生産年齢	1.00	0.92	0.84	0.77	0.71	0.66
老年	1.00	1.09	1.11	1.10	1.06	1.02
全体	1.00	0.97	0.92	0.87	0.81	0.76

資料：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所

図　年齢別人口の推移（H27 を 1 とした指数）



	H27	H32	H37	H42	H47	H52
老年	8,610	9,414	9,572	9,445	9,144	8,755
生産年齢	15,268	14,000	12,805	11,824	10,906	10,006
年少	3,431	2,959	2,635	2,371	2,192	2,035
計	27,309	26,373	25,012	23,640	22,242	20,796

※平成 27 年の計は年齢不詳を省く

資料：国勢調査、国立社会保障人口問題研究所

図　年齢別人口の推移

(3)　地区別人口

●嬉野庁舎周辺の用途地域内で人口密度が高くなっている。また、塩田庁舎周辺や用途地域の北東側等の地域で人口密度が高い箇所もみられる。

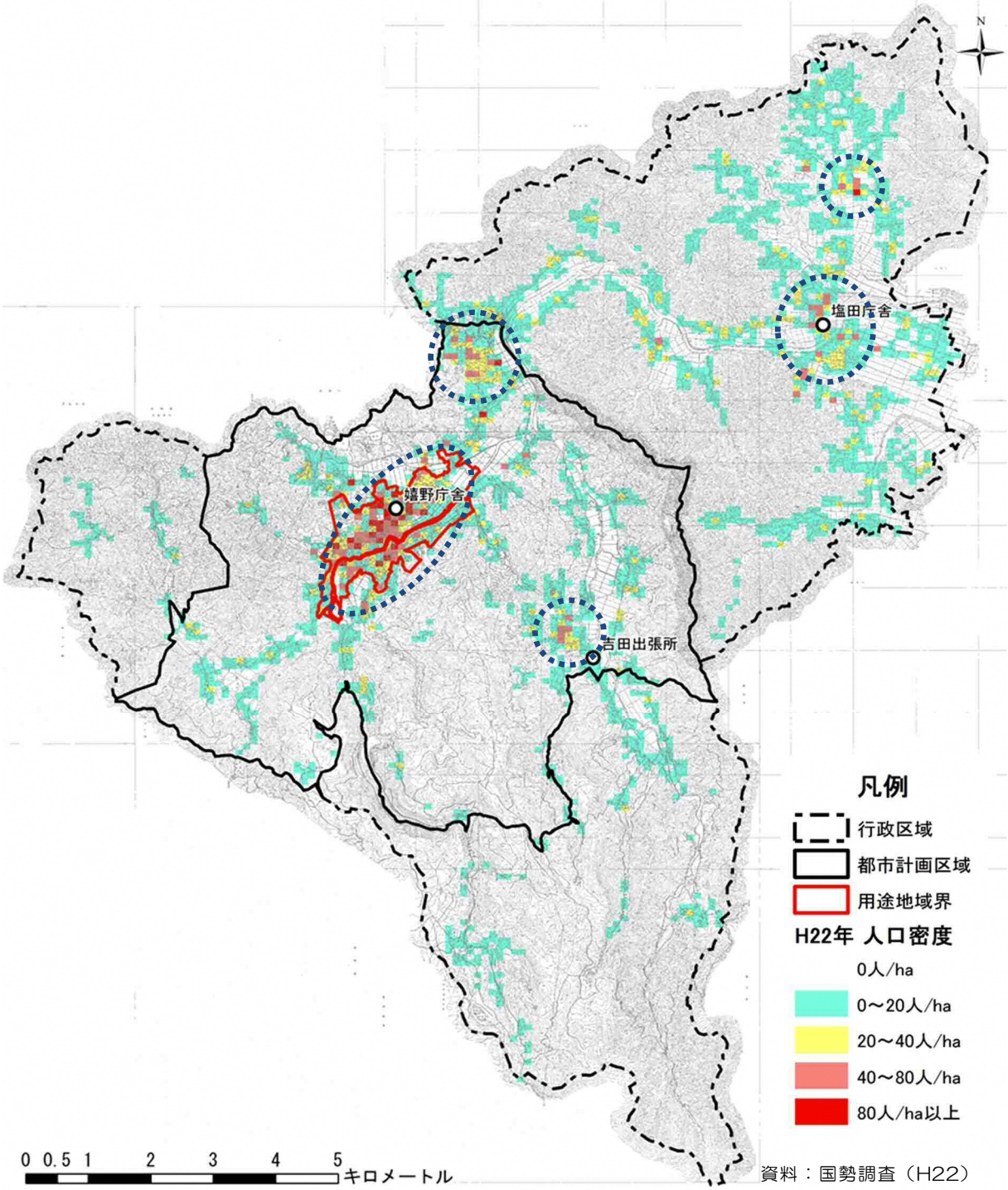
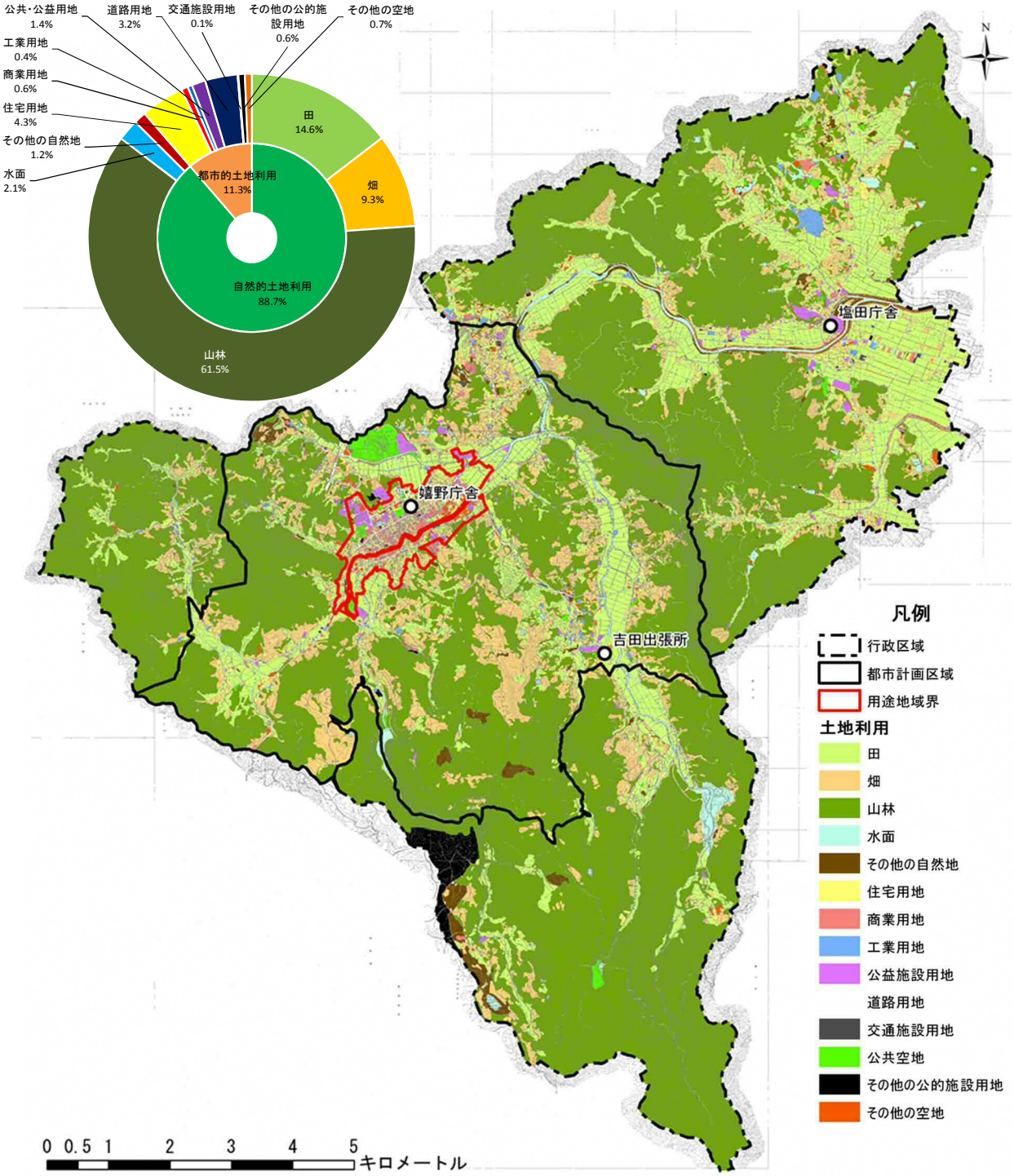


図　平成 22 年人口密度分布図

２． 土地利用の状況

(1) 土地利用現況

●約６割を山林、約２割を農地に利用され、約９割を自然的土地利用が占めている。都市的土地利用は、用途地域内や塩田庁舎周辺部などでみられる。

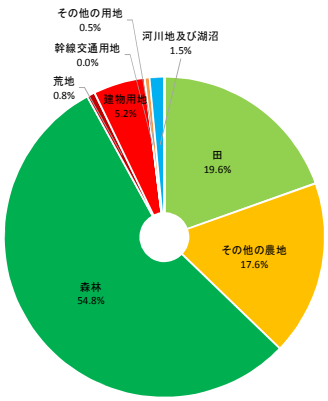


資料：都市計画基礎調査（H20）

図　土地利用現況

(2)　土地利用の変遷

●農地は建物用地等への転換により減少傾向にあり、都市的土地利用が増加傾向にある。



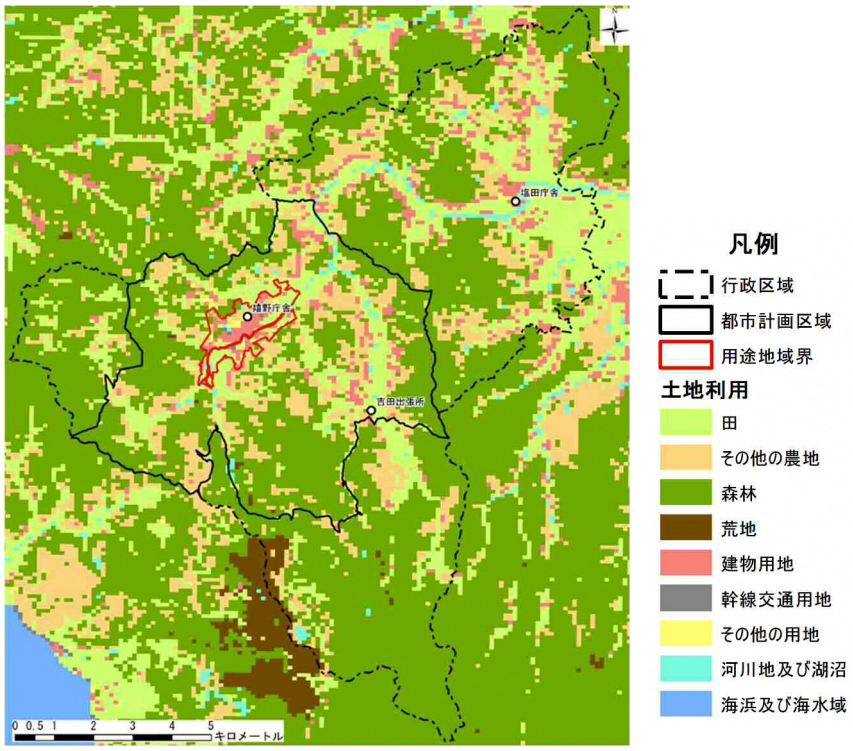
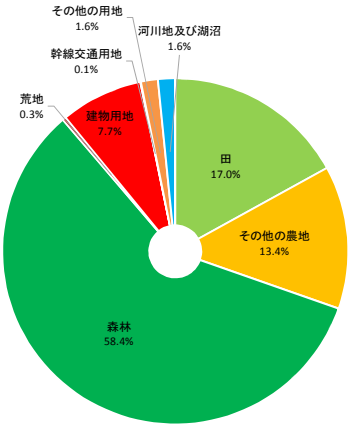


図　昭和 51 年の土地利用状況　　資料：国土数値情報



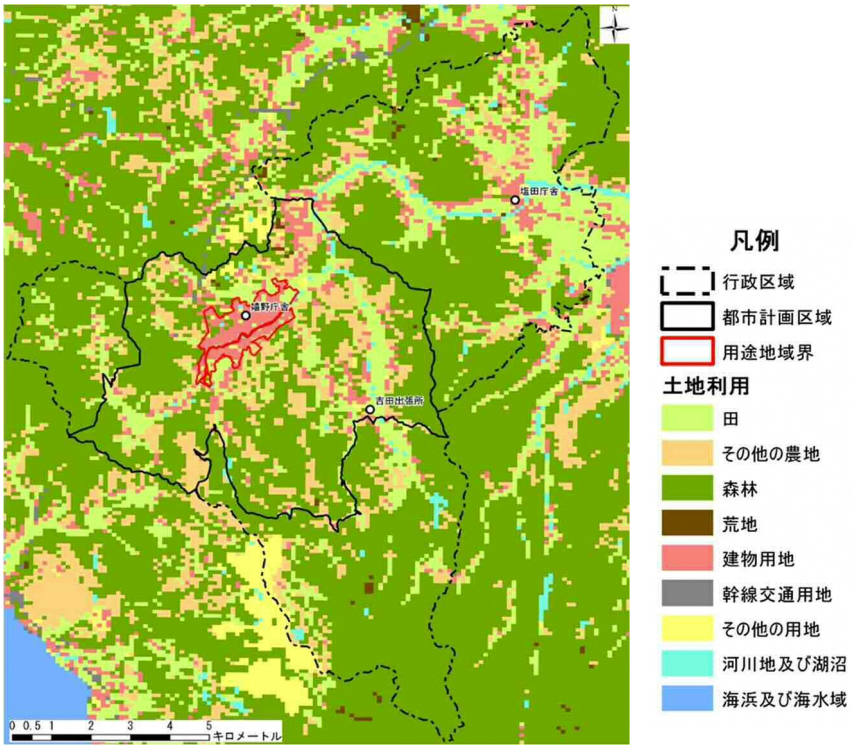
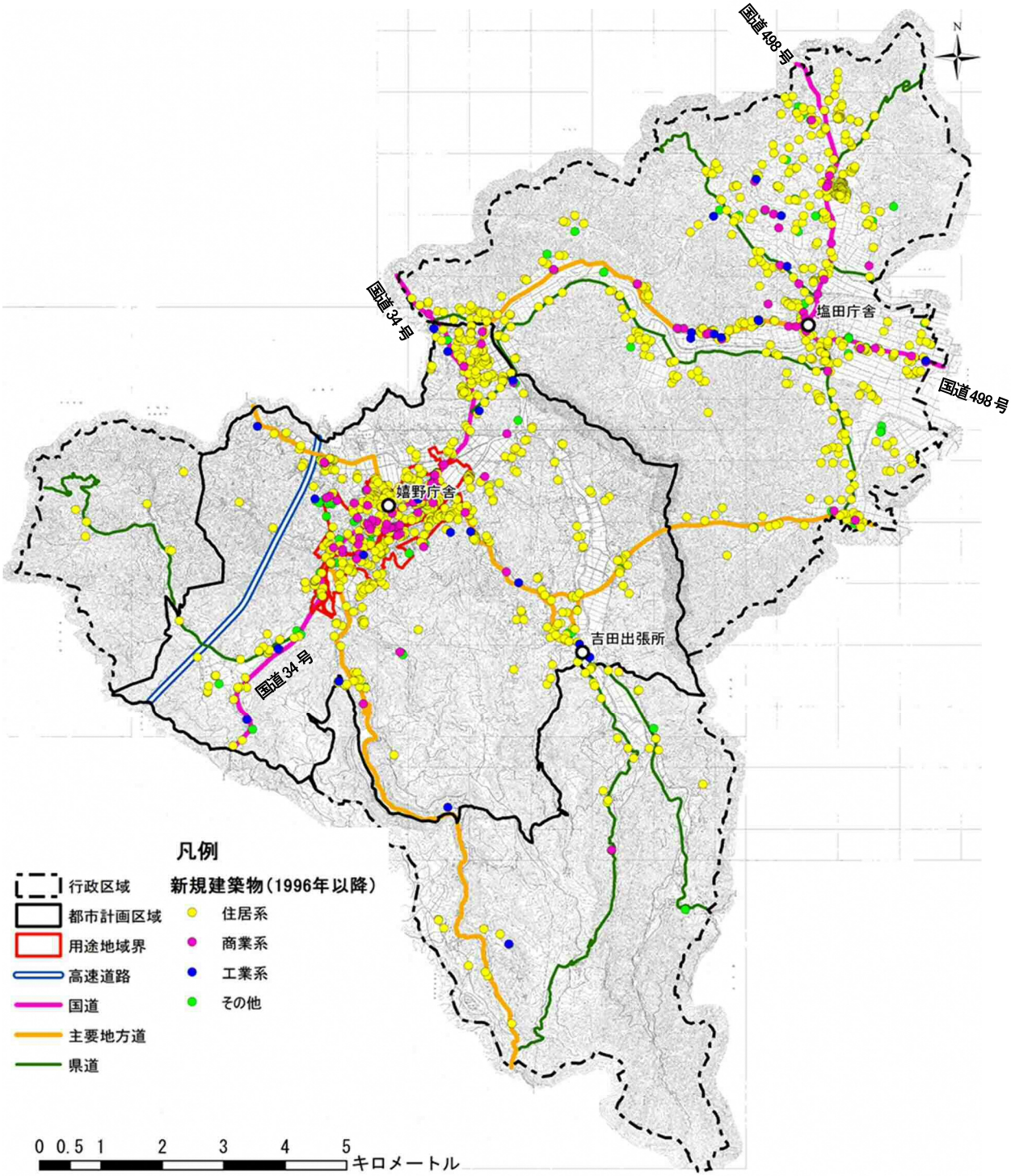


図　平成 26 年の土地利用状況　　資料：国土数値情報

※S51 から H26 にかけて森林地域面積割合が増加しているが、作成年により土地利用の判読方法が異なることが影響している。S51 は 2 万 5 千分の 1 地形図を基図とし、H26 は数値地図（国土基本情報）、電子国土基本図（地図情報）及び電子地形図 25000（地図画像）を背景基図とし、衛星画像（SPOT, RapidEye）を用いて土地利用現況を土地分類基準に従い判読

(3) 用途別新築状況

●嬉野庁舎周辺、塩田庁舎周辺、国道 34 号及び 498 号の沿道周辺で新築建築物が多い。
●商業系の建築物は用途地域内で多くなっている。



資料：都市計画基礎調査（H20）

図　新築建築物分布図

３．　交通の状況

(1)　公共交通の状況

①鉄道

●現在、九州新幹線 西九州ルートが整備中であり、嬉野高校近くに嬉野温泉駅の建設が進められている。
●また、嬉野温泉駅周辺には嬉野医療センターが開業する予定である。

図　嬉野温泉駅　完成イメージ

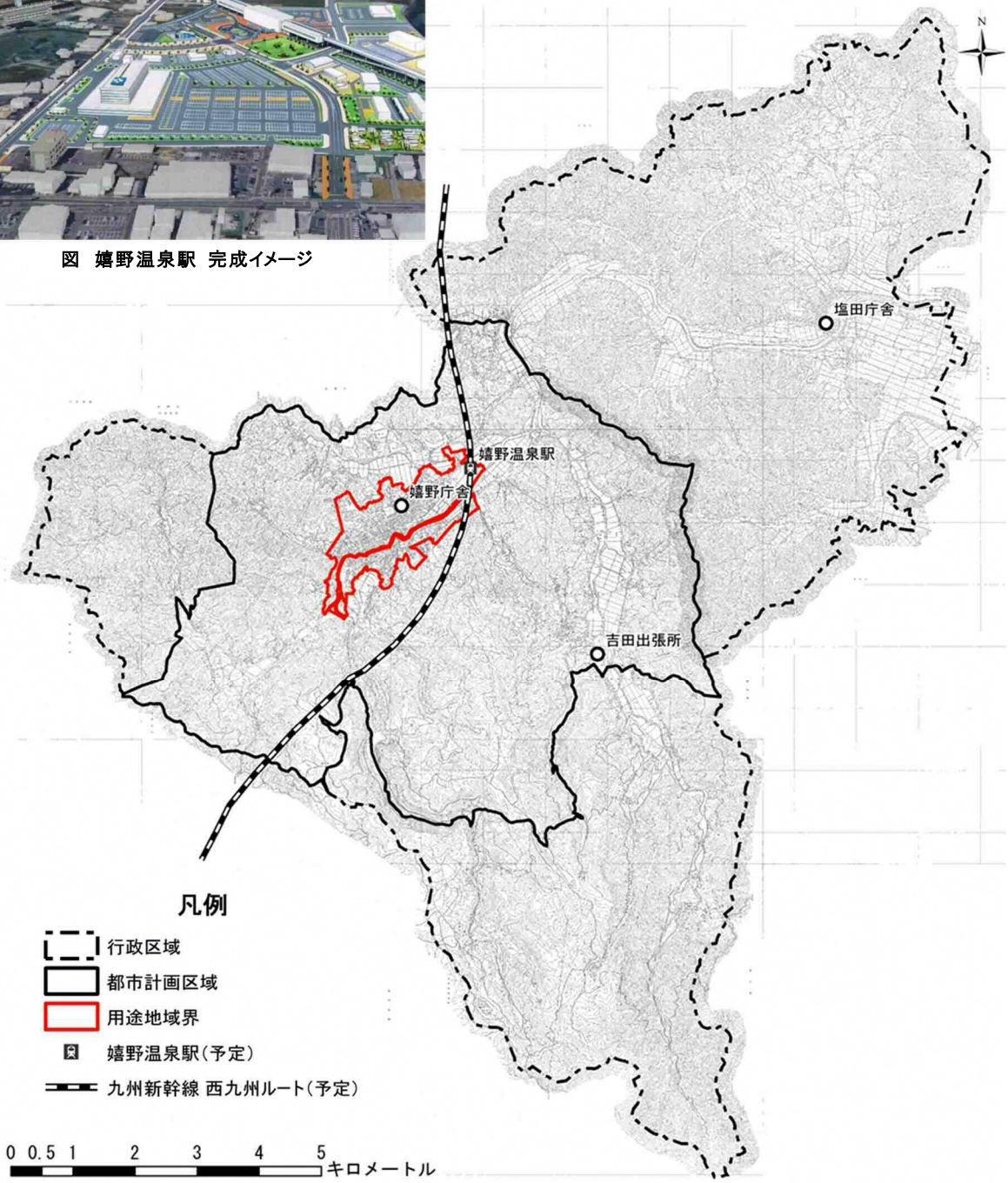


図　九州新幹線　西九州ルート

②バス

●生活交通路線として祐徳バス３路線（祐徳線、嬉野線、吉田線）、JR 九州バス嬉野線、西肥バス佐世保線の計５路線があり、廃止路線代替バスとして４路線（上久間線、下吉田線、三間坂線、牛の岳線）、それ以外に乗合タクシー２路線（大野原線、春日線）が運行している。

●路線バスの利用者は年々減少しており、運賃収入だけではバス路線の維持が困難な状況にある。廃止路線代替バスについても維持が危ぶまれている状況にある。

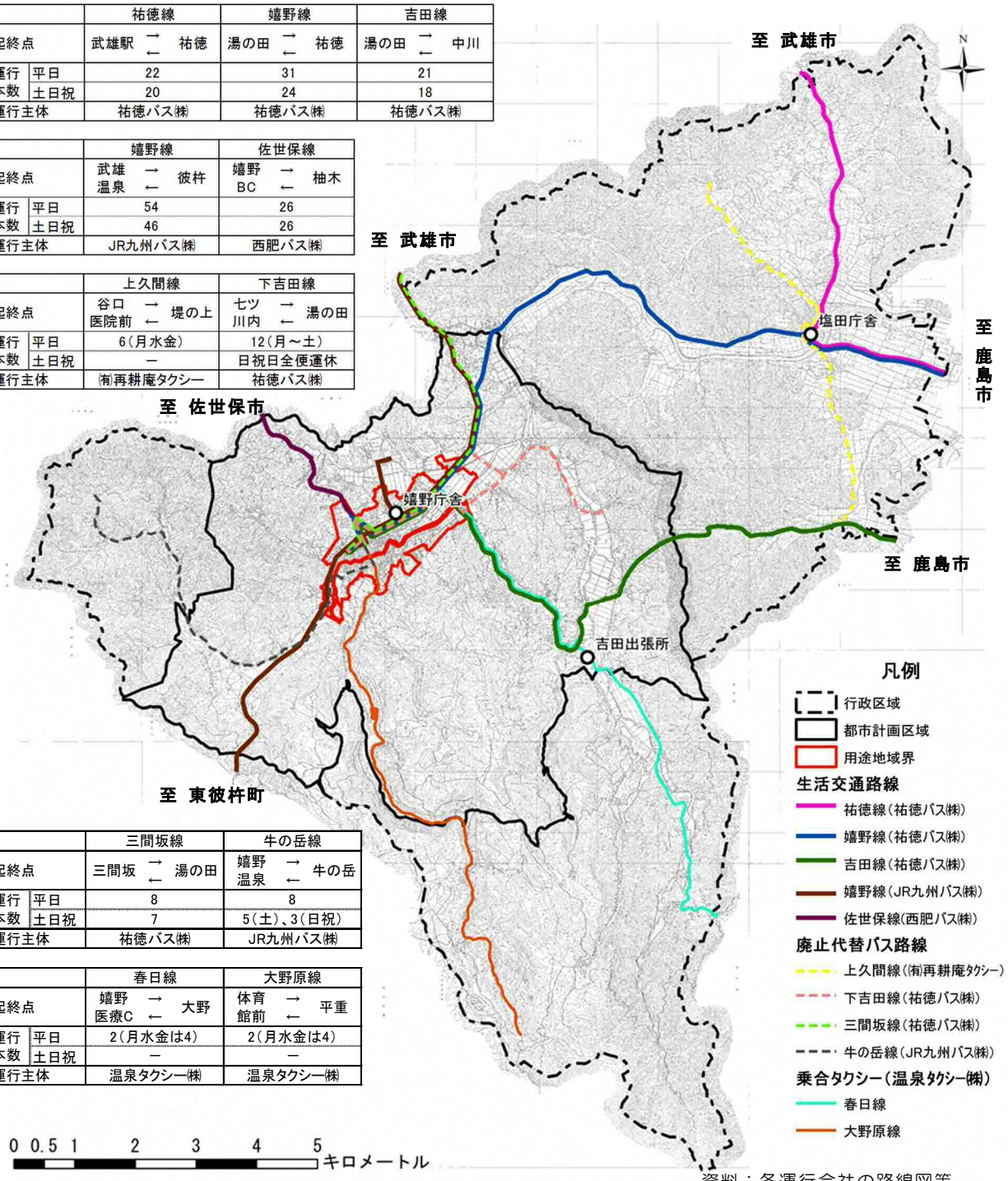
		祐徳線	嬉野線	吉田線
起終点		武雄駅 → ← 祐徳	湯の田 → ← 祐徳	湯の田 → ← 中川
運行本数	平日	22	31	21
	土日祝	20	24	18
運行主体		祐徳バス㈱	祐徳バス㈱	祐徳バス㈱

		嬉野線	佐世保線
起終点		武雄温泉 → ← 彼杵	嬉野BC → ← 柚木
運行本数	平日	54	26
	土日祝	46	26
運行主体		JR九州バス㈱	西肥バス㈱

		上久間線	下吉田線
起終点		谷口医院前 → ← 堤の上	七ツ川内 → ← 湯の田
運行本数	平日	6（月水金）	12（月～土）
	土日祝	―	日祝日全便運休
運行主体		㈲再耕庵タクシー	祐徳バス㈱

		三間坂線	牛の岳線
起終点		三間坂 → ← 湯の田	嬉野温泉 → ← 牛の岳
運行本数	平日	8	8
	土日祝	7	5（土）、3（日祝）
運行主体		祐徳バス㈱	JR九州バス㈱

		春日線	大野原線
起終点		嬉野医療C → ← 大野	体育館前 → ← 平重
運行本数	平日	2（月水金は4）	2（月水金は4）
	土日祝	―	―
運行主体		温泉タクシー㈱	温泉タクシー㈱

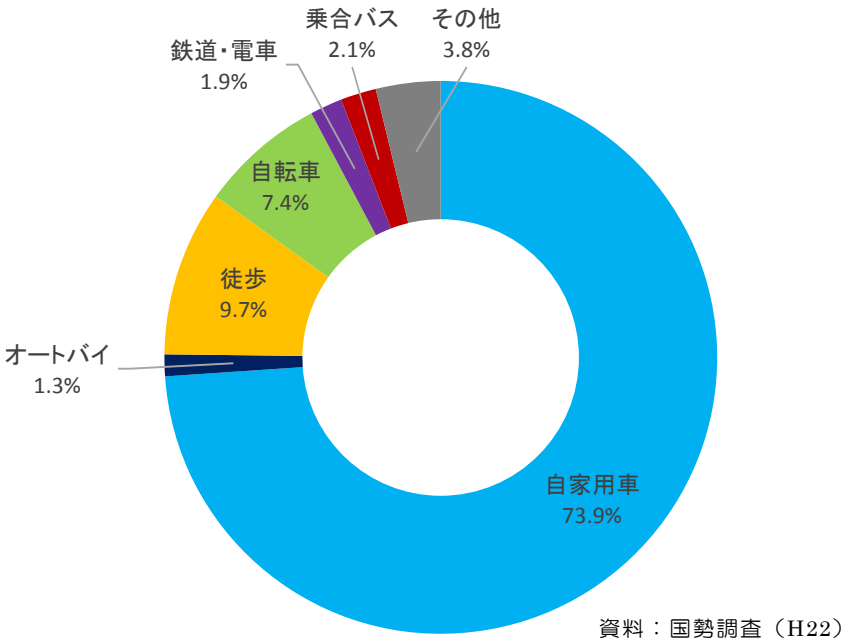


資料：各運行会社の路線図等

図　バスの運行状況

(2)　交通手段

●通勤・通学に自家用車を利用している割合が約７割、鉄道やバスなどの公共交通を利用している割合は 4%となっている。



資料：国勢調査（H22）

図　利用交通手段別の割合（15 歳以上）

4． 都市基盤施設の整備状況

(1) 都市施設

①道路の現況

●市西側に長崎自動車道が通り、用途地域の北側に嬉野 IC が立地。
●国道 34 号、国道 498 号、（主）佐世保嬉野線、（主）鹿島嬉野線が周辺市町を結ぶ。

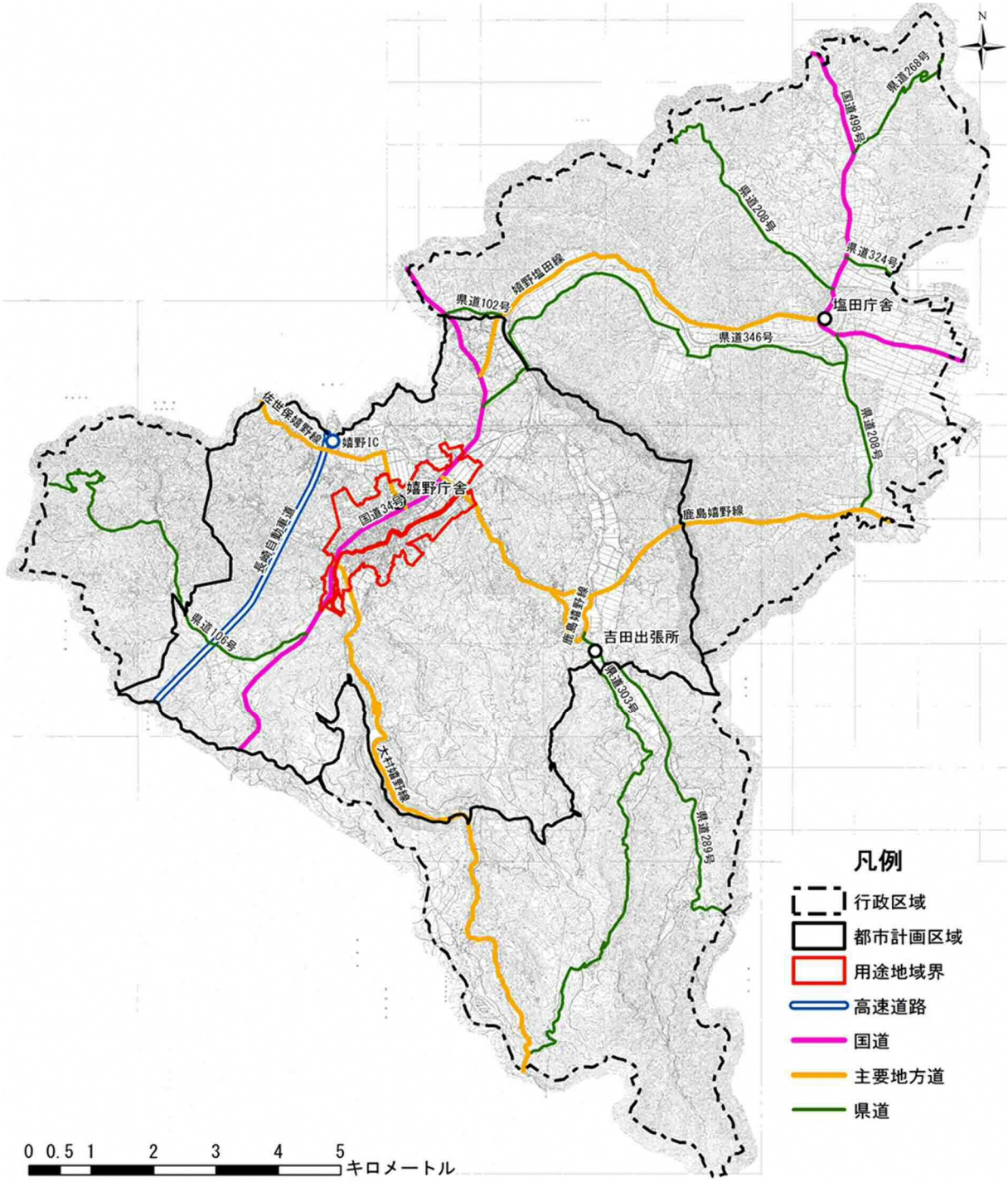
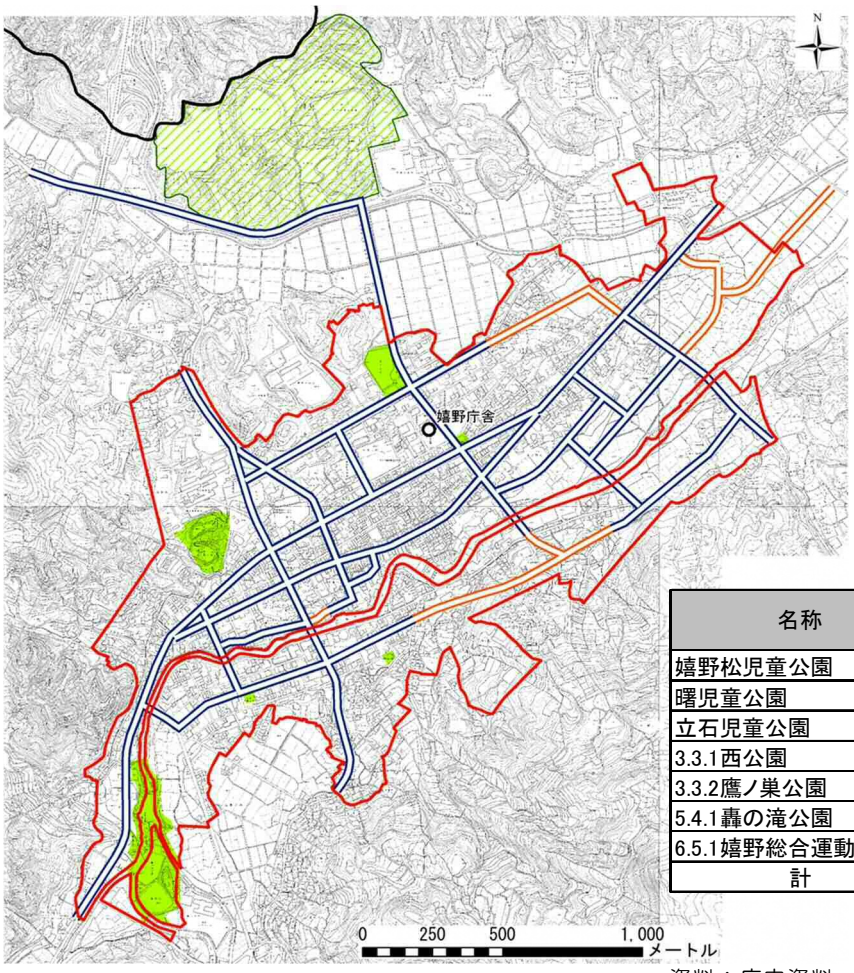


図　道路の現況

②都市計画道路・公園の整備状況

●都市計画道路が 18 路線、計 18.7km 計画されており、整備率 85.8%。
●都市計画公園が７箇所、計 54.15ha 計画されており、整備率 96.6%。



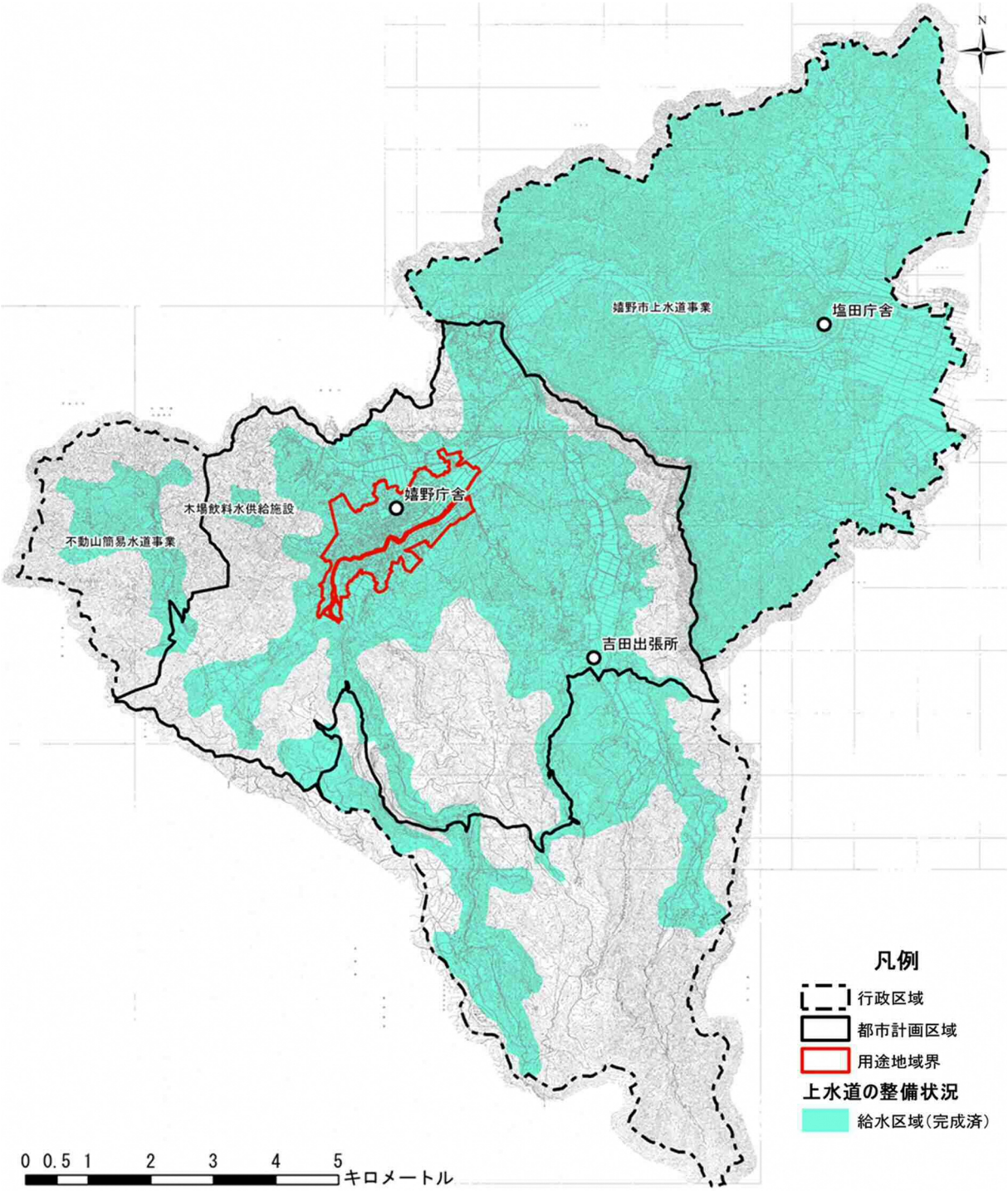
名称	面積（ha）	供用（ha）	整備率（%）
嬉野松児童公園	0.16	0.16	100.0%
曙児童公園	0.14	0.14	100.0%
立石児童公園	0.21	0.21	100.0%
3.3.1西公園	2.8	2.8	100.0%
3.3.2鷹ノ巣公園	1.84	1.84	100.0%
5.4.1轟の滝公園	6.6	6.6	100.0%
6.5.1嬉野総合運動公園	42.4	40.58	95.7%
計	54.15	52.33	96.6%

図　都市計画道路・公園の整備状況　資料：庁内資料

路線名	幅員（m）	延長（m）	整備済（m）	概成済（m）	未整備（m）	整備率（%）
3.4.1昭和通り線	16	3,600	1,640	1,960	0	100.0%
3.4.2下宿大通り線	16	2,220	1,622	0	598	73.1%
3.4.3中井出線	16	520	0	370	150	71.2%
3.4.4八反角1号線	16	230	230	0	0	100.0%
3.4.5八反角2号線	16	480	480	0	0	100.0%
3.4.6八反角3号線	16	350	350	0	0	100.0%
3.4.7八反角4号線	16	510	510	0	0	100.0%
3.4.12新幹線嬉野温泉駅1号線	21	140	0	0	140	0.0%
3.4.13新幹線嬉野温泉駅2号線	16	370	0	0	370	0.0%
3.4.14新幹線嬉野温泉駅3号線	16	570	0	0	570	0.0%
3.5.8総合運動公園線	14	2,180	2,180	0	0	100.0%
3.5.9嬉野環状線	12	2,410	1,630	0	780	67.6%
3.5.10病院通り線	12	1,570	1,210	360	0	100.0%
3.5.11轟線	12	390	390	0	0	100.0%
7.6.1旧本通り線	8	1,470	1,470	0	0	100.0%
7.6.2楓ノ木通り線	8	650	650	0	0	100.0%
7.6.3川端通り線	8	780	780	0	0	100.0%
8.6.1体育館通り線	8	250	200	0	50	80.0%
計		18,690	13,342	2,690	2,658	85.8%

③上水道

●上水道は、山間部を除く居住可能な区域で普及が進んでいる。

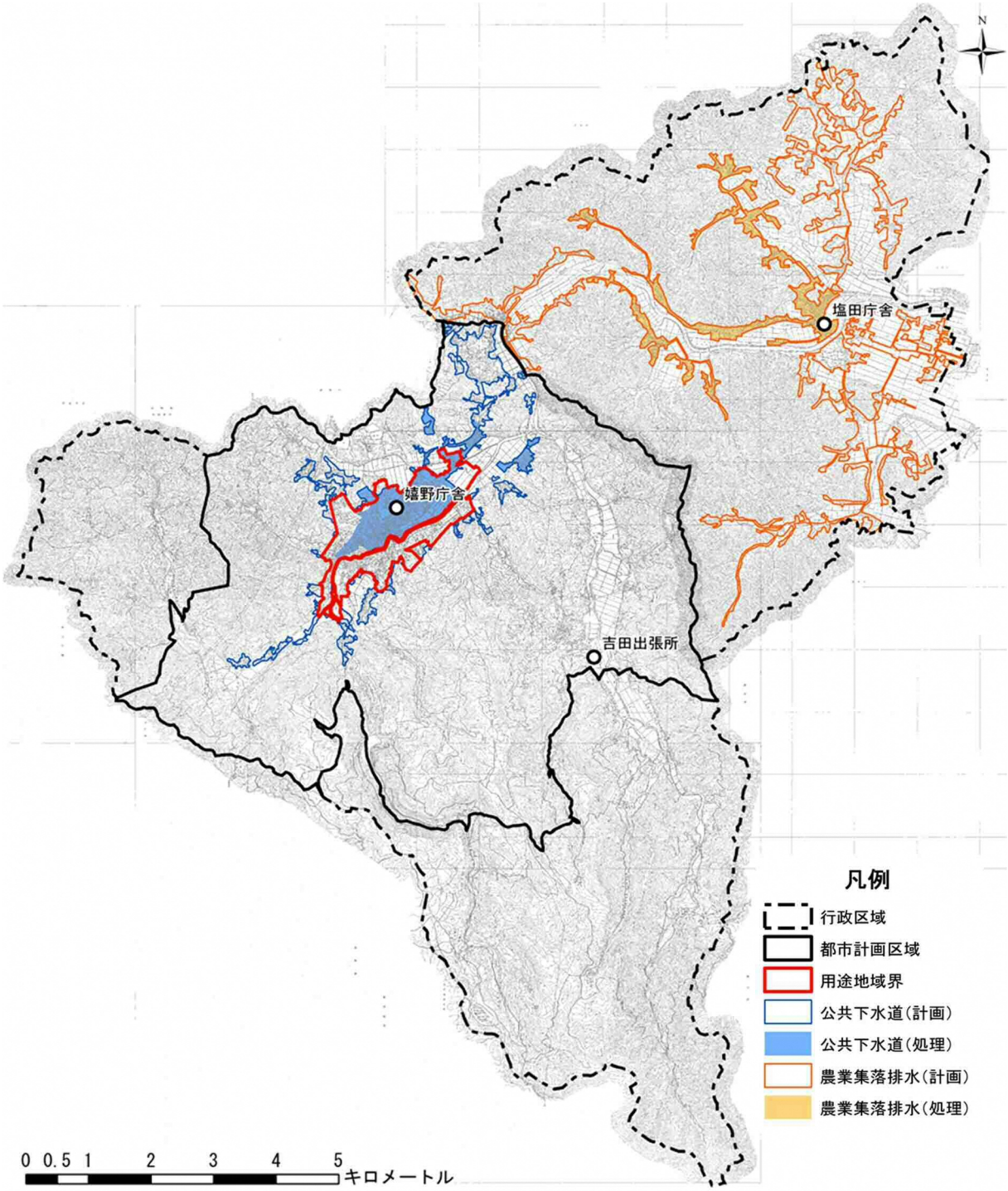


資料：都市計画基礎調査（H20）

図　上水道の整備状況

④下水道

●嬉野地区では公共下水道、塩田地区では農業集落排水を計画しており、嬉野庁舎周辺及び塩田庁舎周辺などで供用されている。



資料：都市計画基礎調査（H20）

図　下水道の整備状況

(2) 市街地整備・開発許可

●用途地域内は、土地区画整理事業が進められている。
●塩田地域では、工業団地造成事業や公有水面埋立事業などが実施されている。

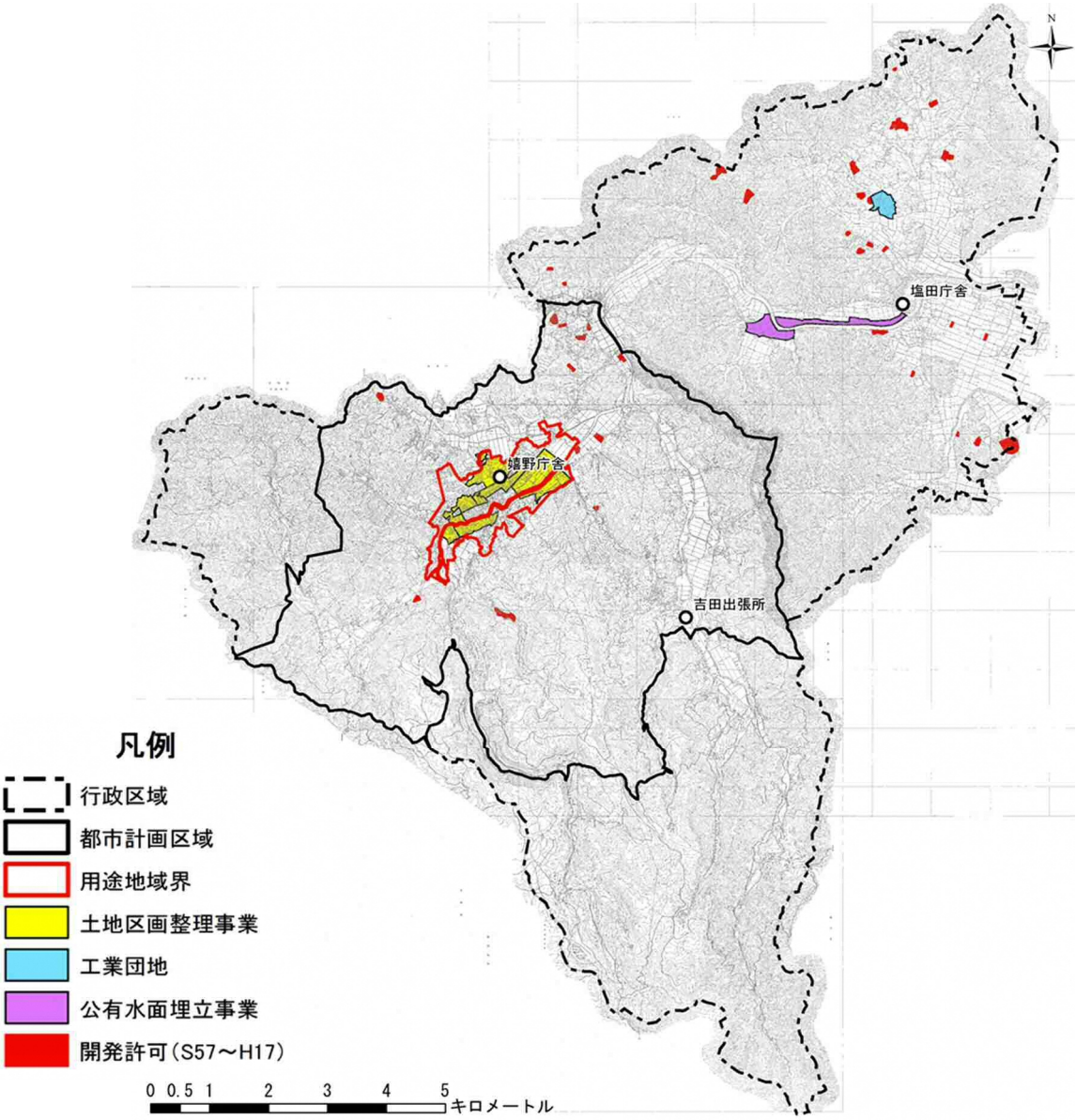


図　開発位置図　資料：都市計画基礎調査（H20）

事業名	事業主体	施行面積（ha）	事業期間	備考
第一土地区画整理事業	組合	5.7	S17～S25	
第二土地区画整理事業	嬉野市	8.5	S29～S33	嬉野町施行
第三土地区画整理事業	嬉野市	11.4	S32～S42	嬉野町施行
第四土地区画整理事業	嬉野市	17.8	S37～S48	嬉野町施行
第五土地区画整理事業	嬉野市	5.8	S46～S59	嬉野町施行
第六土地区画整理事業	嬉野市	24	S58～H2	嬉野町施行
第七土地区画整理事業	嬉野市	26.9	H6～H23	
第八土地区画整理事業	嬉野市	15.7	H9～H23	
下宿地区土地区画整理事業	嬉野市	2.1	H19～H22	
久間工業団地造成事業	塩田町土地開発公社	8.5	H1～H2	
公有水面埋立事業				

５．　都市機能の状況

(1)　都市機能（教育施設）

●小中学校は、各地域に、高等学校等は嬉野、塩田地区の中心部周辺にそれぞれ立地している。

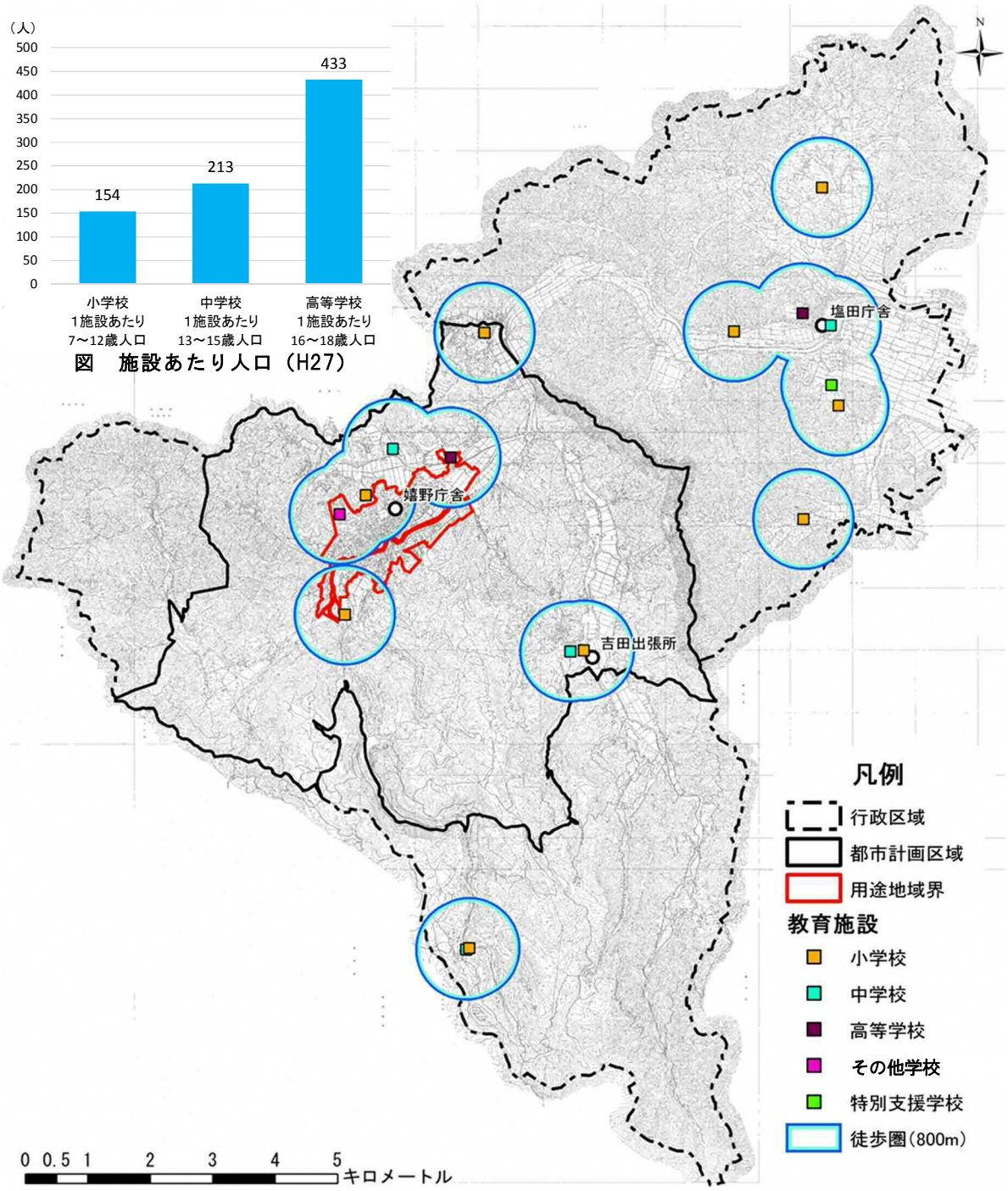


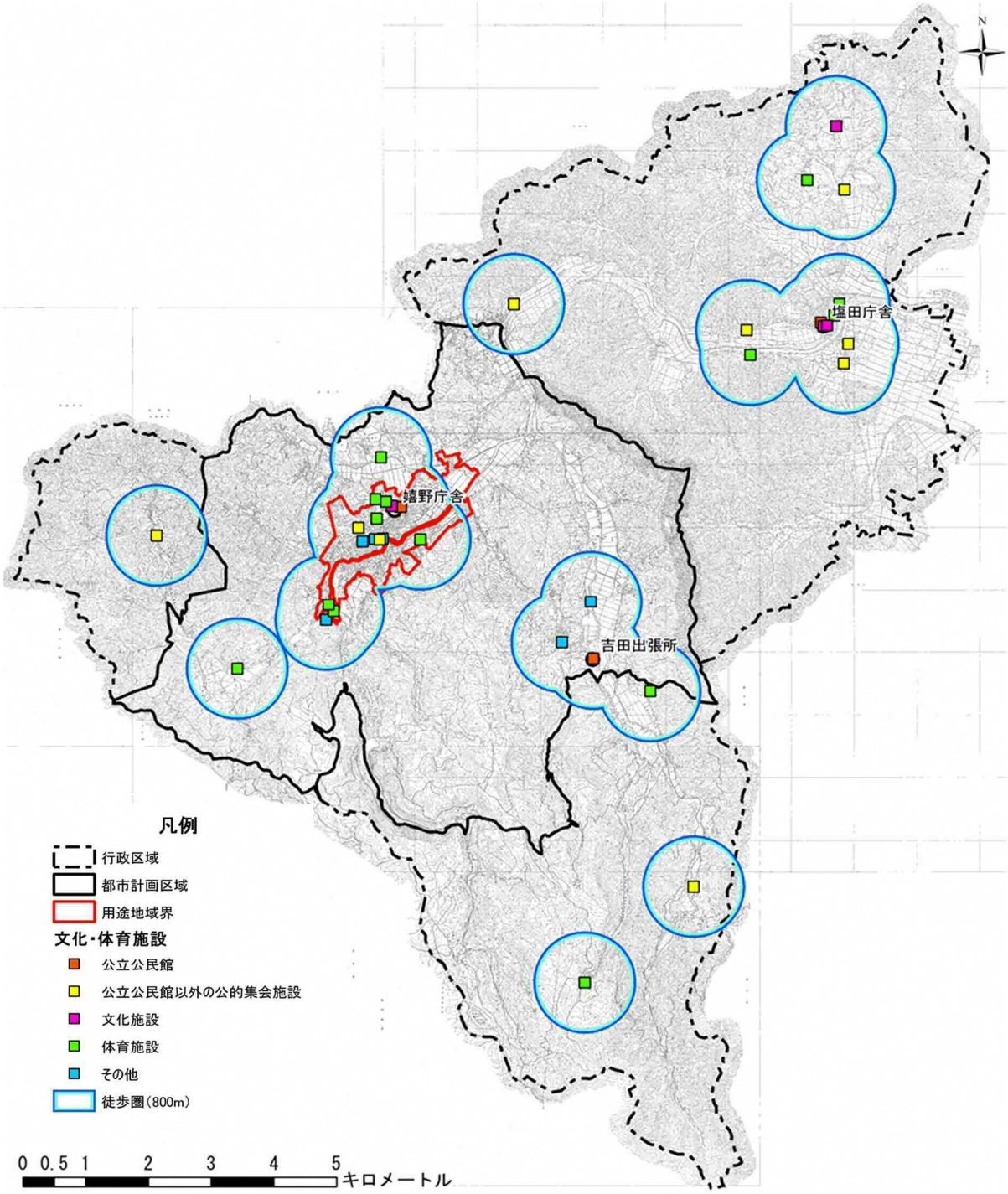
図　施設あたり人口（H27）

資料：国土数値情報ダウンロードサービス

図　教育施設分布図

(2) 都市機能（文化・体育施設）

●公立公民館や集会所は、各地域に立地しており、図書館などの文化施設は、中心市街地に集積している。



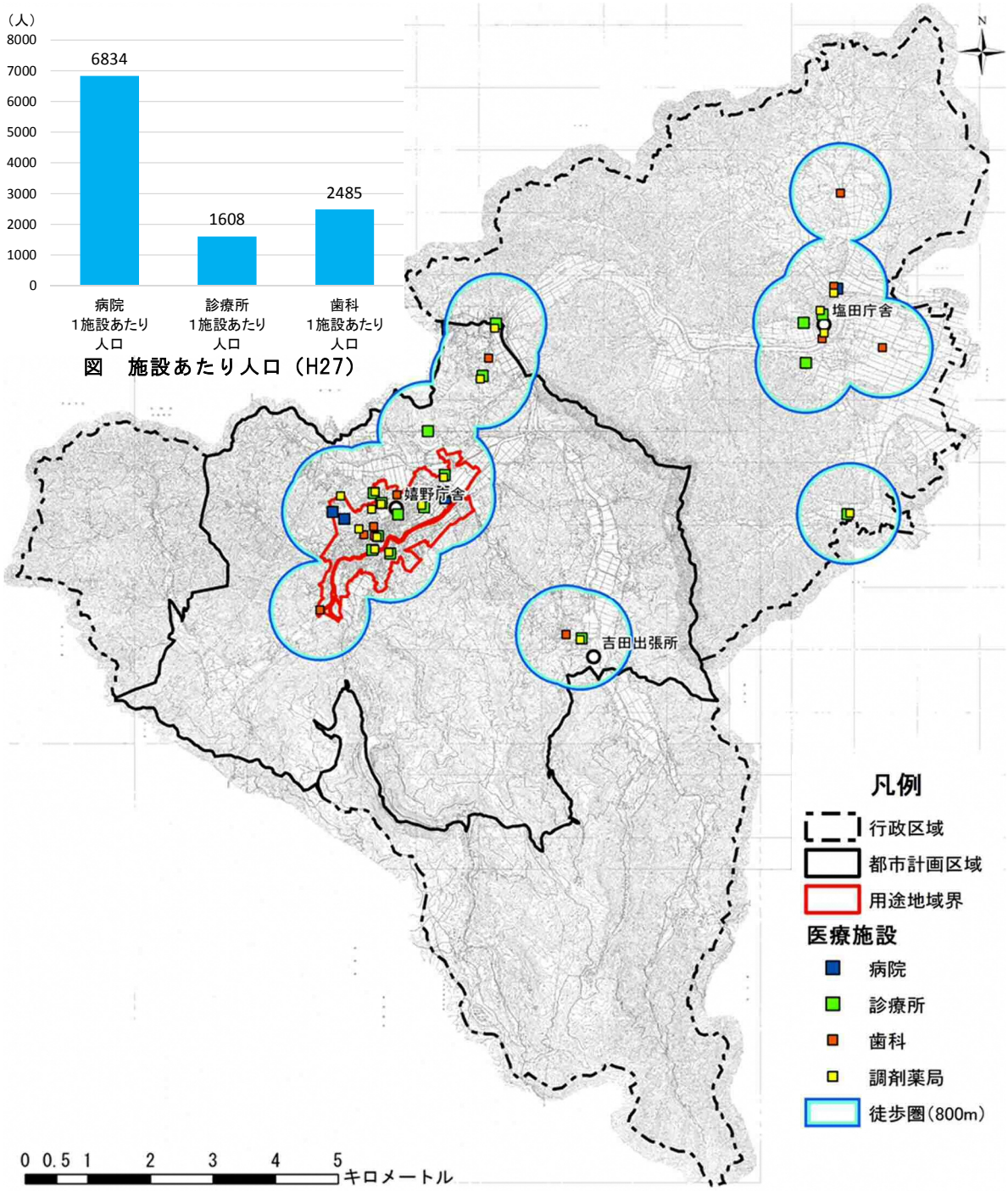
資料：国土数値情報ダウンロードサービス
公共施設等総合管理計画
嬉野市 HP

図　文化・体育施設分布図

(3)　都市機能（医療施設）

●医療施設は、用途地域内や塩田庁舎周辺など人口集積地に立地している。

図　施設あたり人口（H27）

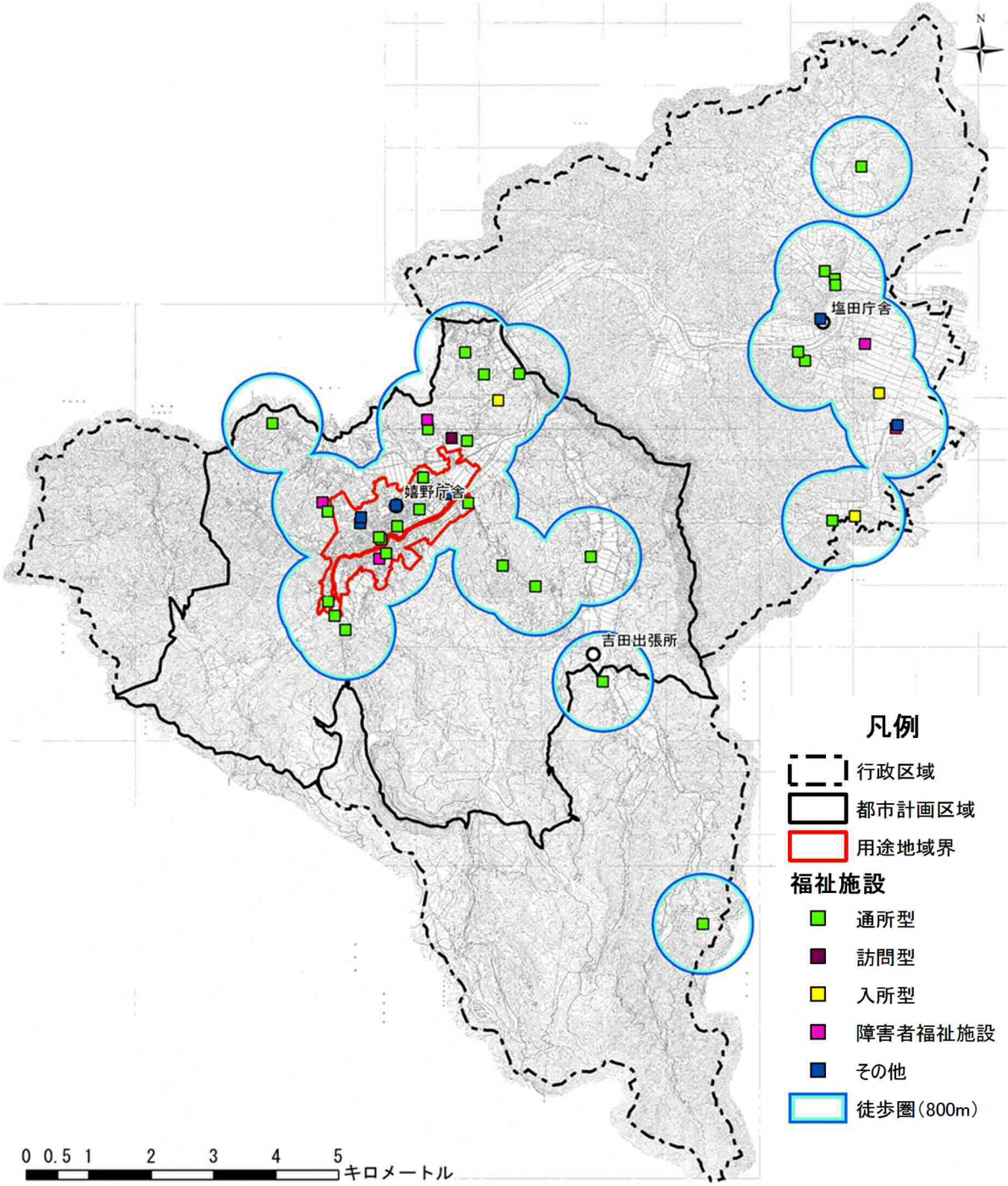


資料：国土数値情報ダウンロードサービス
地域医療情報システム

図　医療施設分布図

(4) 都市機能（高齢者福祉施設）

●高齢者福祉施設は、用途地域周辺や塩田庁舎周辺などの人口集積地の周辺に立地している。



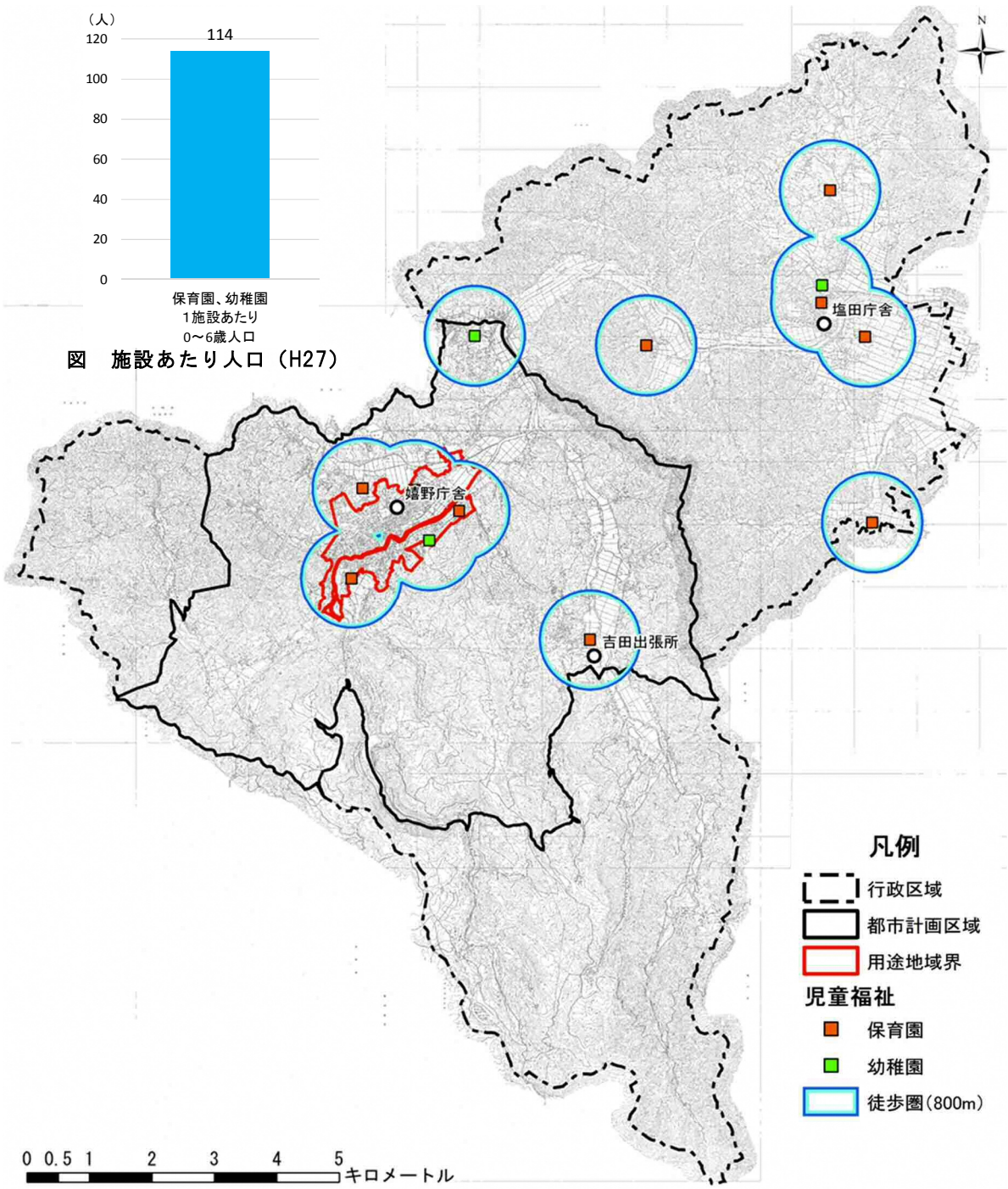
資料：国土数値情報ダウンロードサービス
介護サービス情報公開システム

図　高齢者福祉施設分布図

(5)　都市機能（児童福祉施設）

●児童福祉施設は、各地域に立地し、人口集積地では多くみられる。

図　施設あたり人口（H27）



資料：国土数値情報ダウンロードサービス

図　児童福祉施設分布図

(6) 都市機能（商業施設）

●スーパーマーケット等は、用途地域内や塩田庁舎周辺の人口集積地に多く立地しており、コンビニは国道 34 号や 498 号等主要道路の沿道に立地している。

図　施設あたり人口（H27）

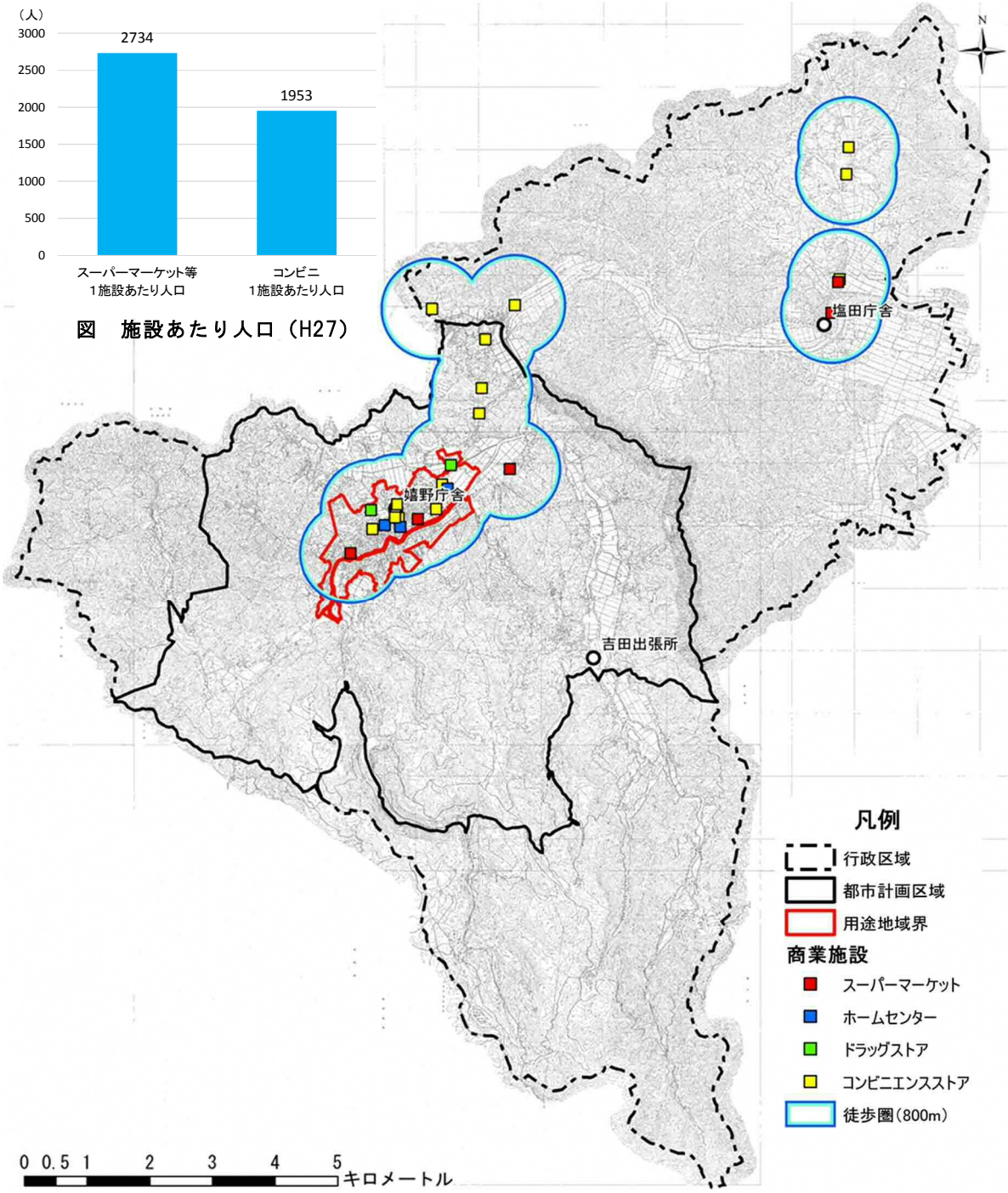
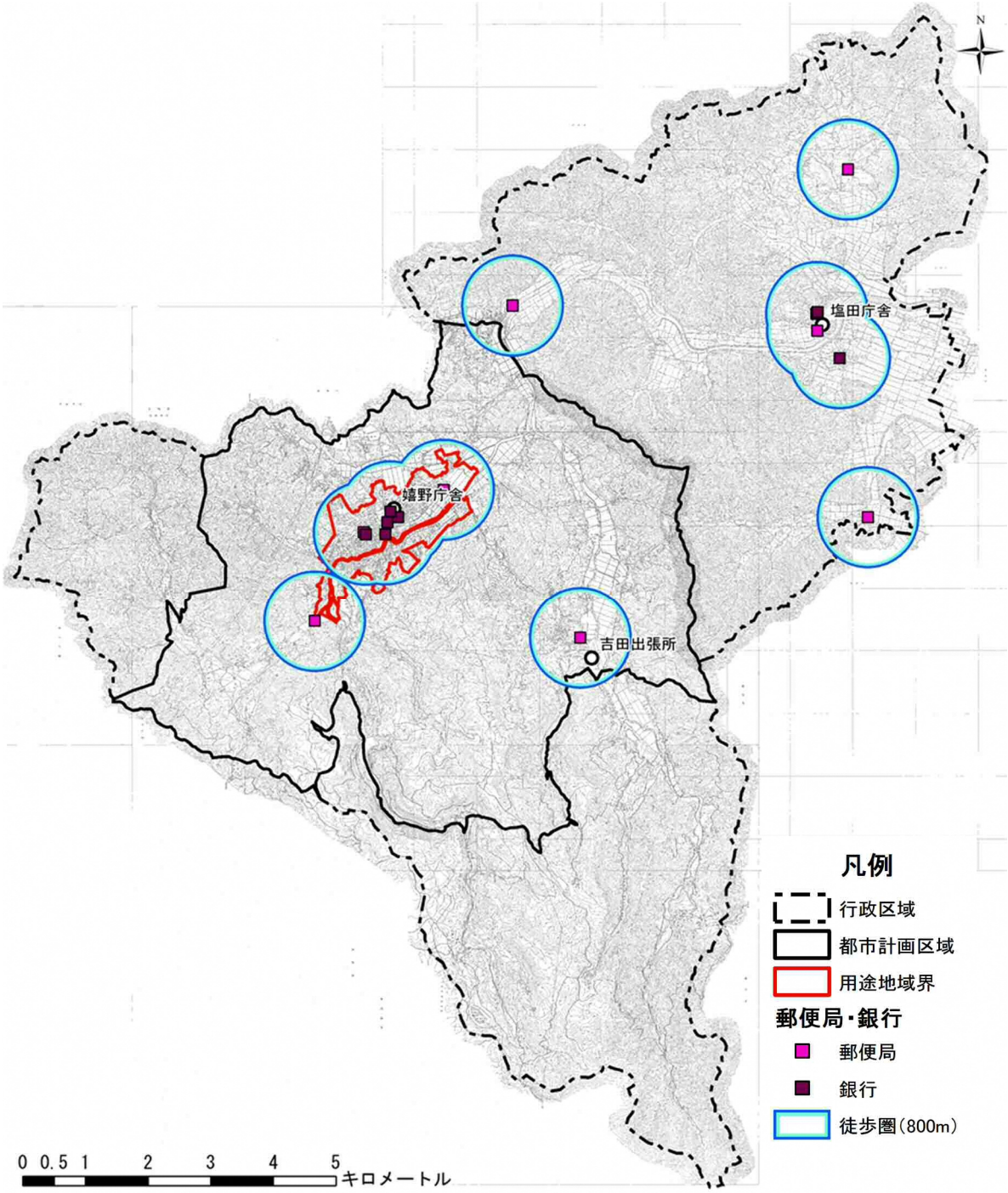


図　商業施設分布図

資料：iタウンページ（業種：ショッピング）
（平成 29 年 1 月 5 日現在）

(7)　都市機能（郵便局、銀行）

●郵便局は、各地域に立地しており、銀行は用途地域内や塩田庁舎周辺に立地している。

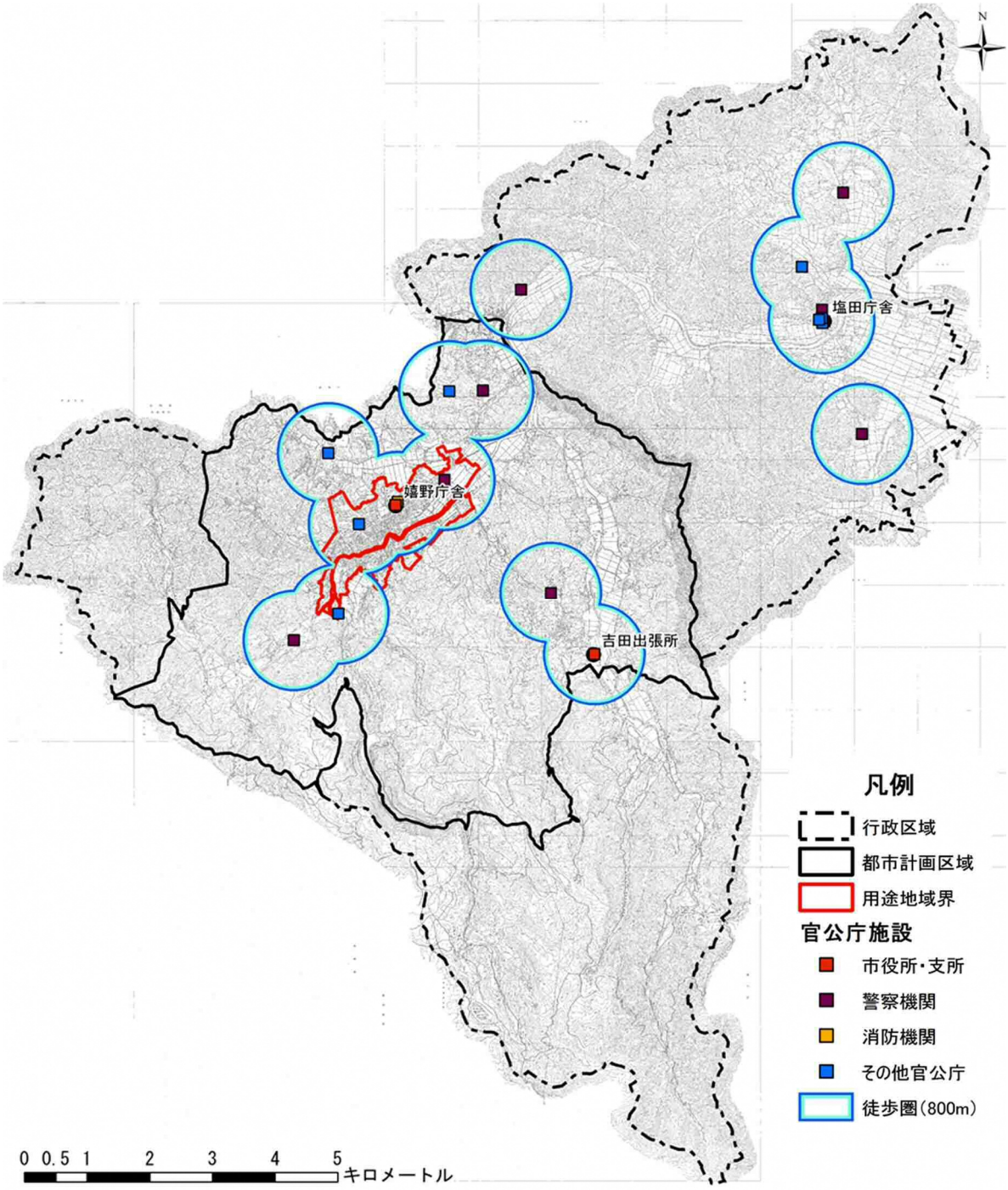


資料：国土数値情報ダウンロードサービス
iタウンページ（平成 29 年 1 月 5 日現在）

図　郵便局・銀行分布図

(8) 都市機能（官公庁施設）

●市役所・支所は、嬉野、塩田、吉田に立地し、駐在所などの官公庁施設は各地域に立地している。



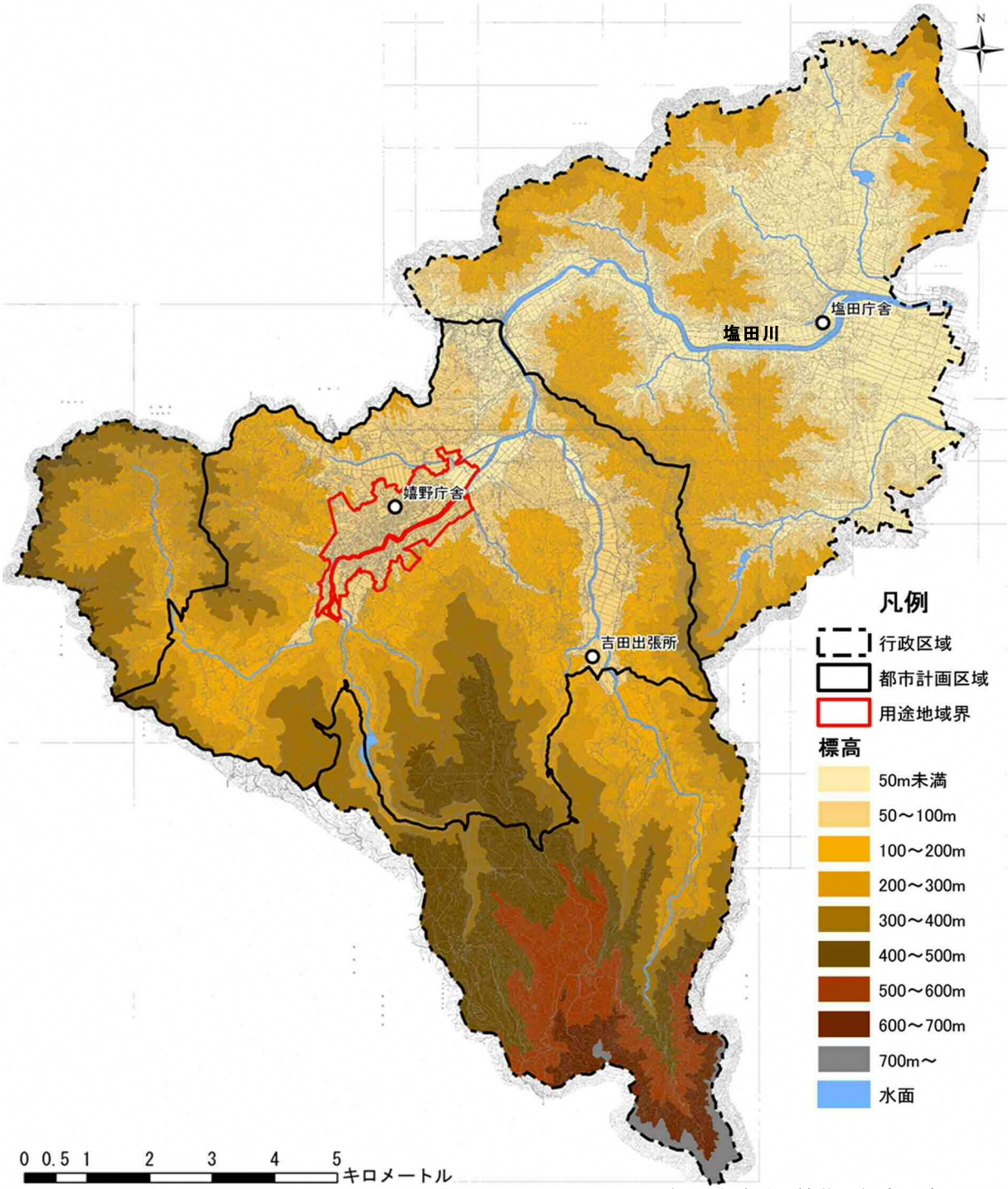
資料：国土数値情報ダウンロードサービス
嬉野市 HP

図　官公庁施設分布図

６．　災害

(1)　地形

●山地・丘陵地とそれらに囲まれた盆地および有明海側に開けた平地で形成されている。また、塩田川が東西に横断し嬉野地域と塩田地域を繋いでいる。

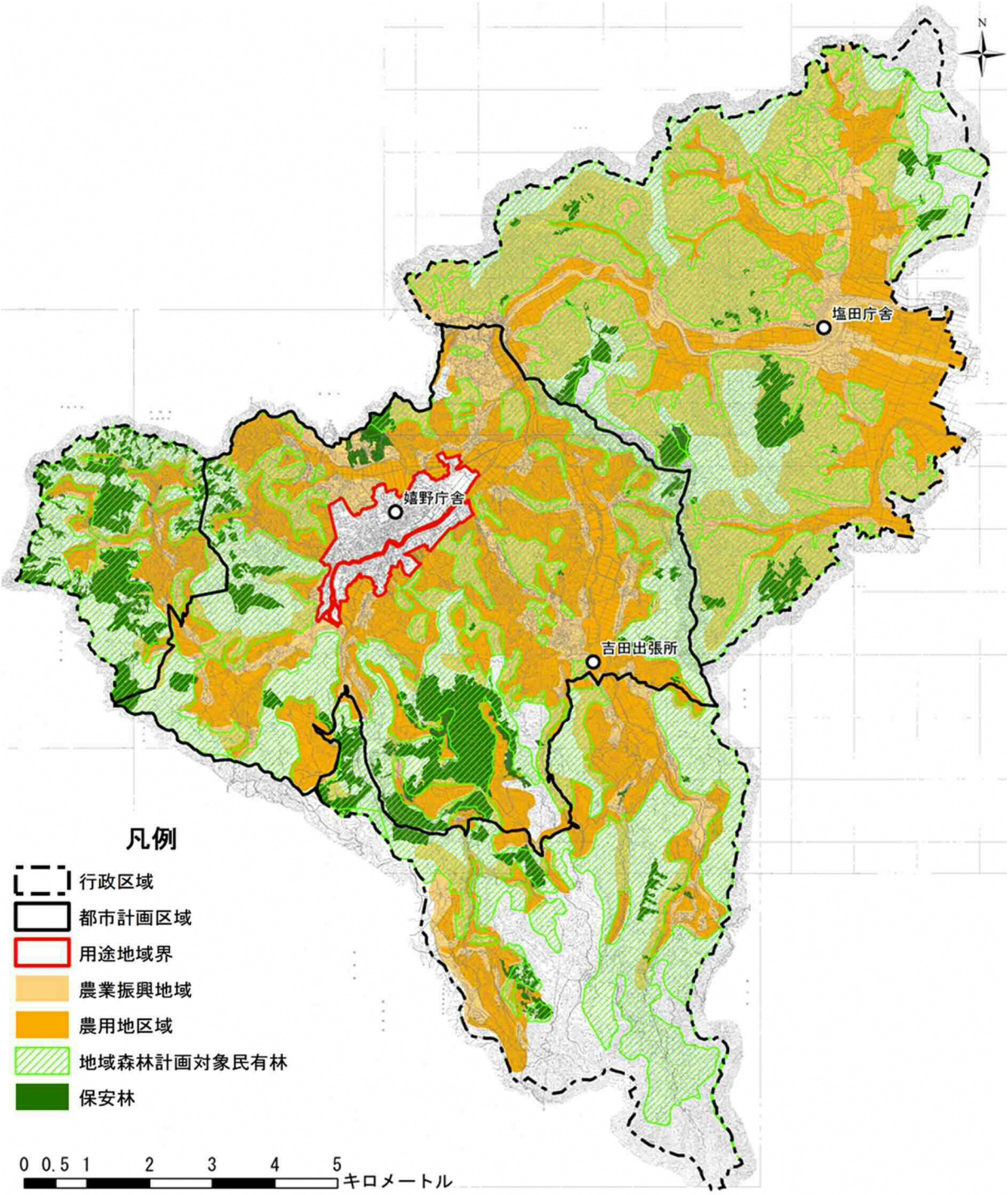


資料：都市計画基礎調査（H20）

図　地形および水系

(2) 法規制状況

●用途地域外は農業振興地域もしくは森林地域が大半を占めており、平野部では農用地、山間部では保安林や民有林の区域となっている。

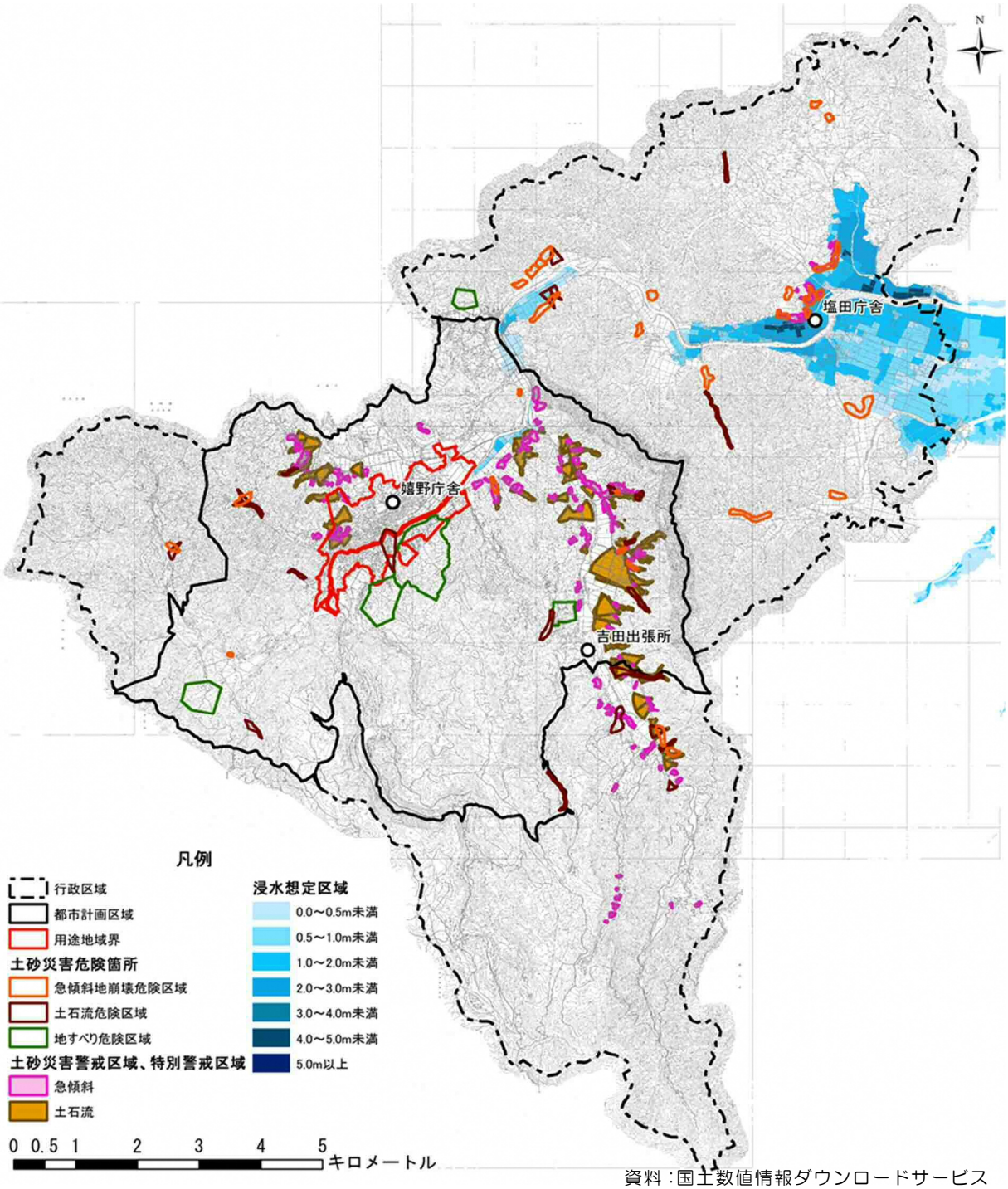


資料：都市計画基礎調査（H20）

図　法規制状況

(3)　災害危険箇所

●塩田庁舎周辺から東側の地区では、広範囲に浸水想定区域が指定されている。
●嬉野地区の山間部では、土砂災害等の危険区域が指定されており、用途地域の一部も危険区域となっている。



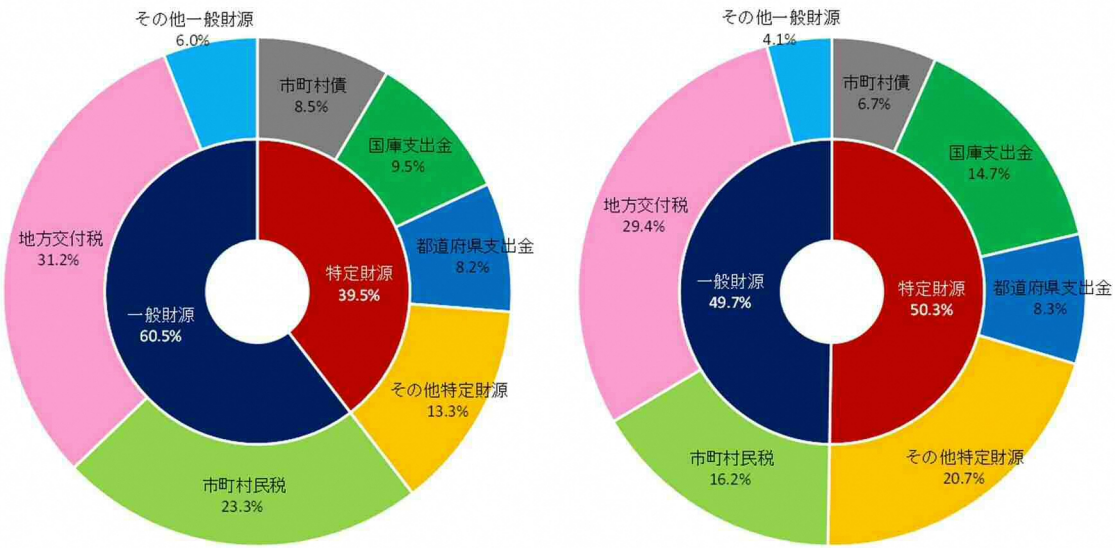
資料：国土数値情報ダウンロードサービス
都市計画区域基礎調査（H20）

図　災害の状況

7． 財政の状況

(1) 歳入

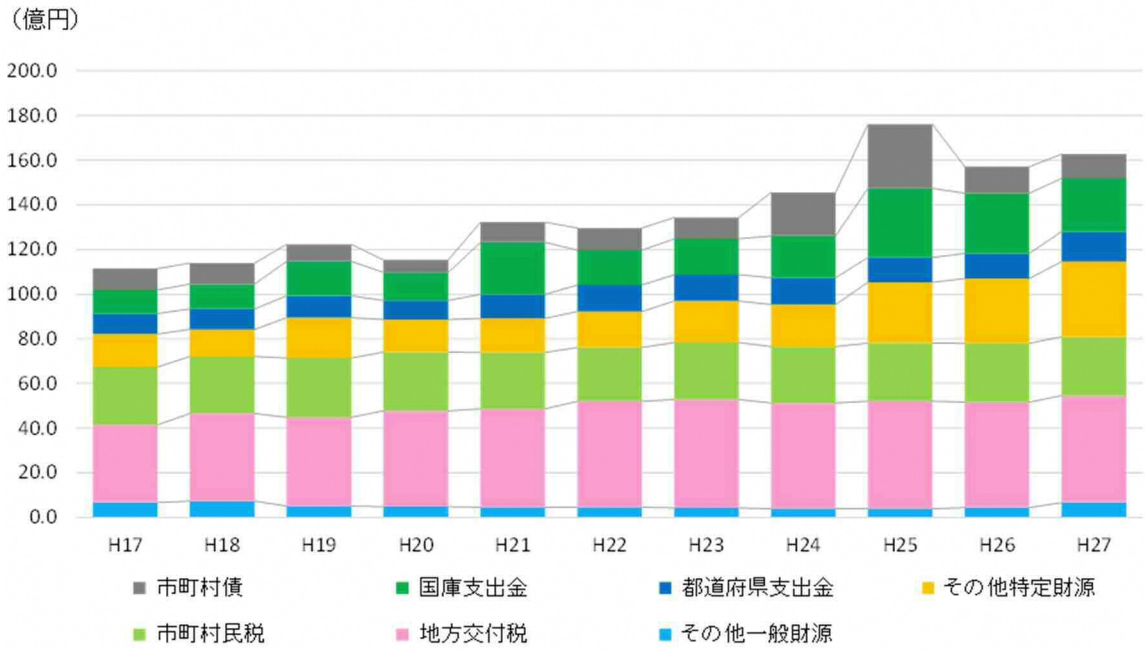
●歳入総額は増加傾向にあるが、使途の限定されない一般財源のうち、自主財源である市民税はほとんど変化がない。今後の、人口減少を踏まえると、財源はますます厳しくなる。



平成 17 年　　平成 27 年

資料：庁内資料

図　歳入の割合（普通会計決算）

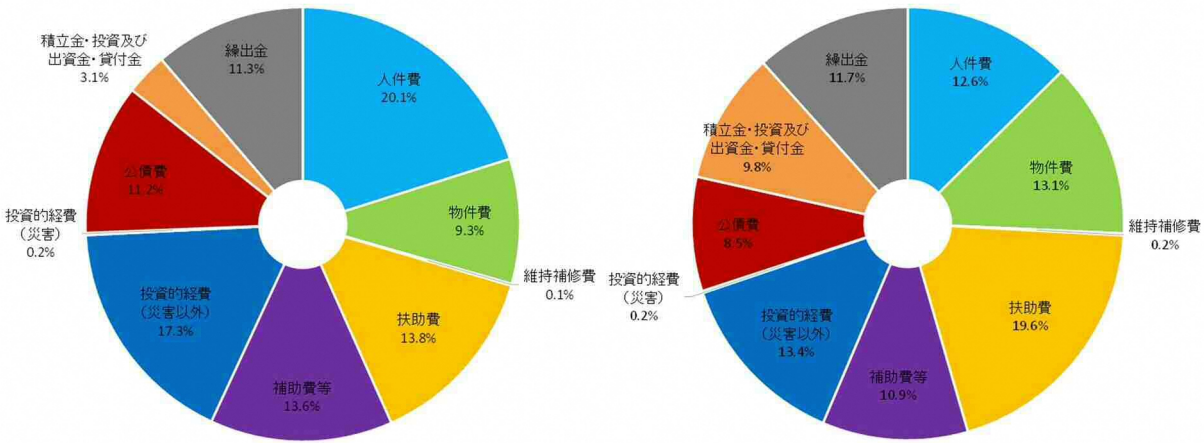


資料：庁内資料

図　歳入の推移（普通会計決算）

(2)　歳出

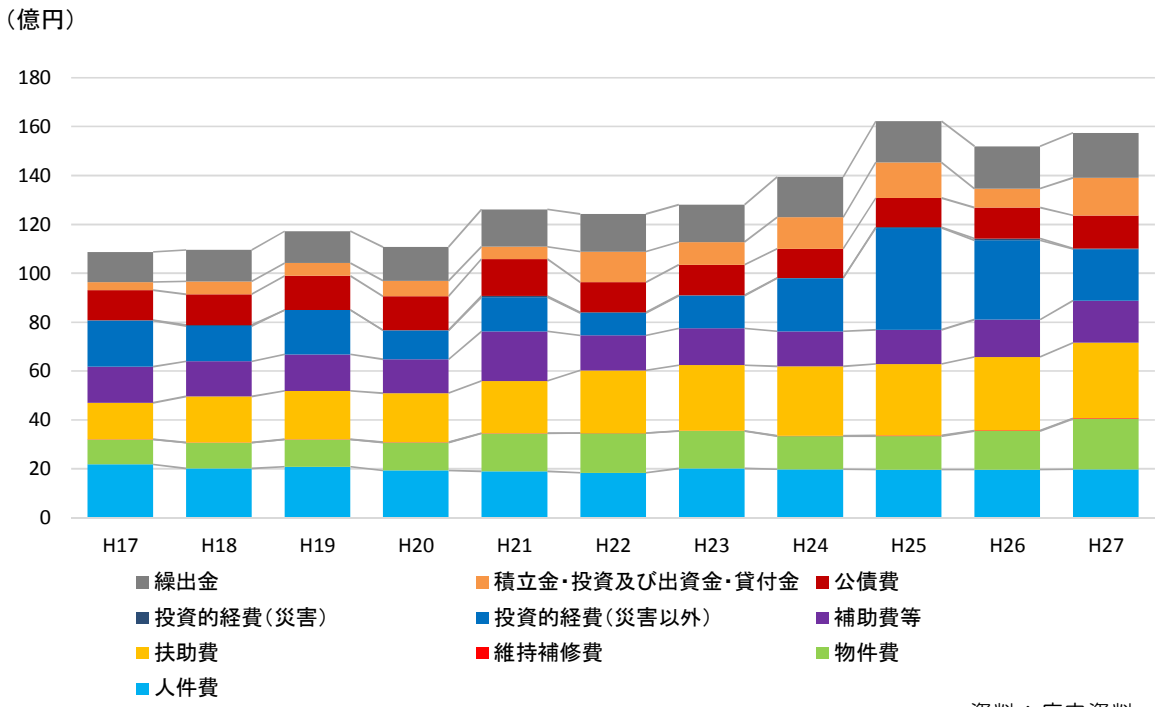
●歳出総額は、歳入と同様に増加傾向にある。
●高齢化にともない「扶助費」の増加が顕著である。今後も扶助費の増加が見込まれ、他の経費を現状レベルで確保することは難しくなることが想定される。



平成 17 年　　平成 27 年

資料：庁内資料

図　歳出の割合（普通会計決算）



資料：庁内資料

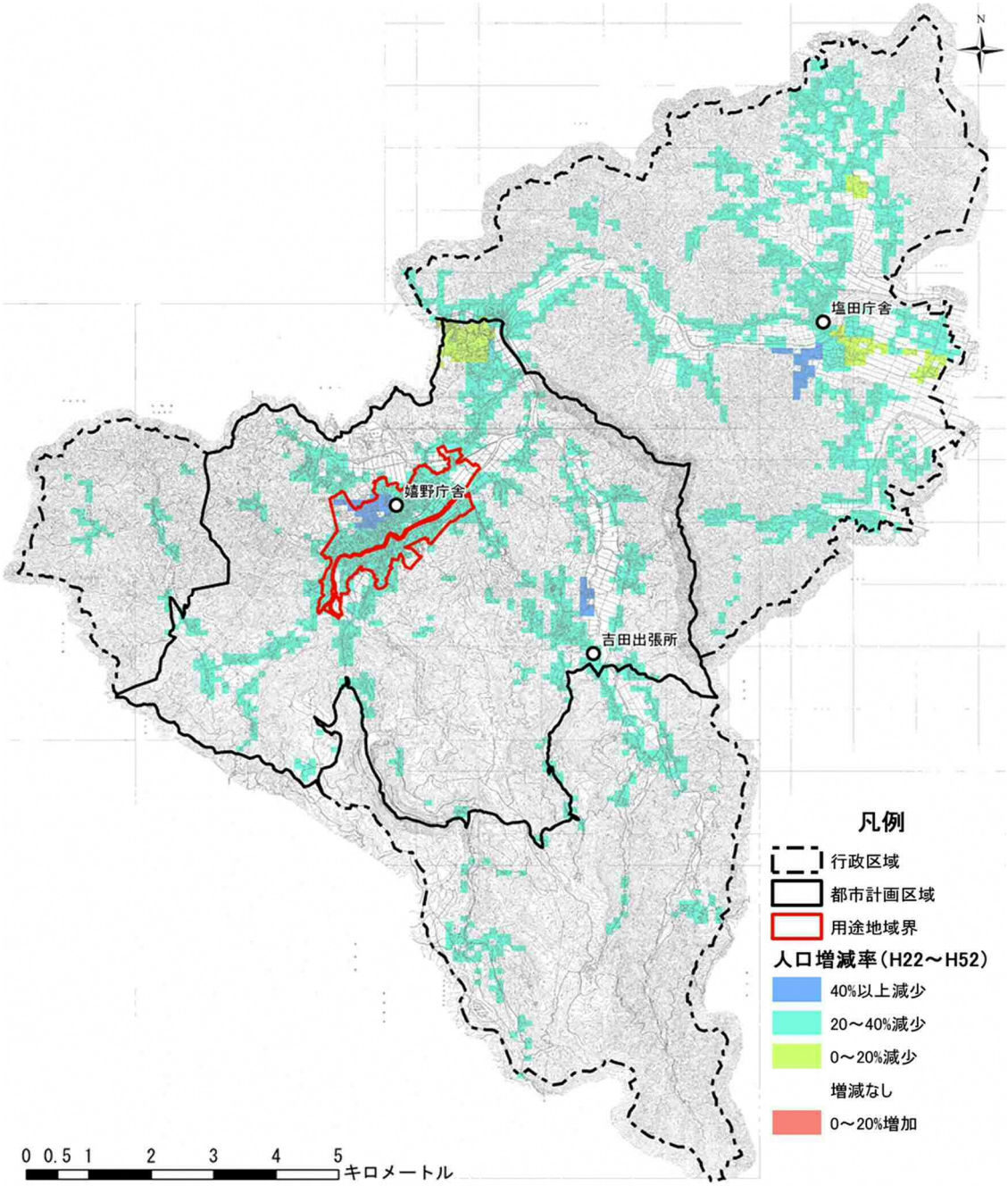
図　歳出の推移（普通会計決算）

３－２　都市構造分析

１．地区別人口・高齢化の動向

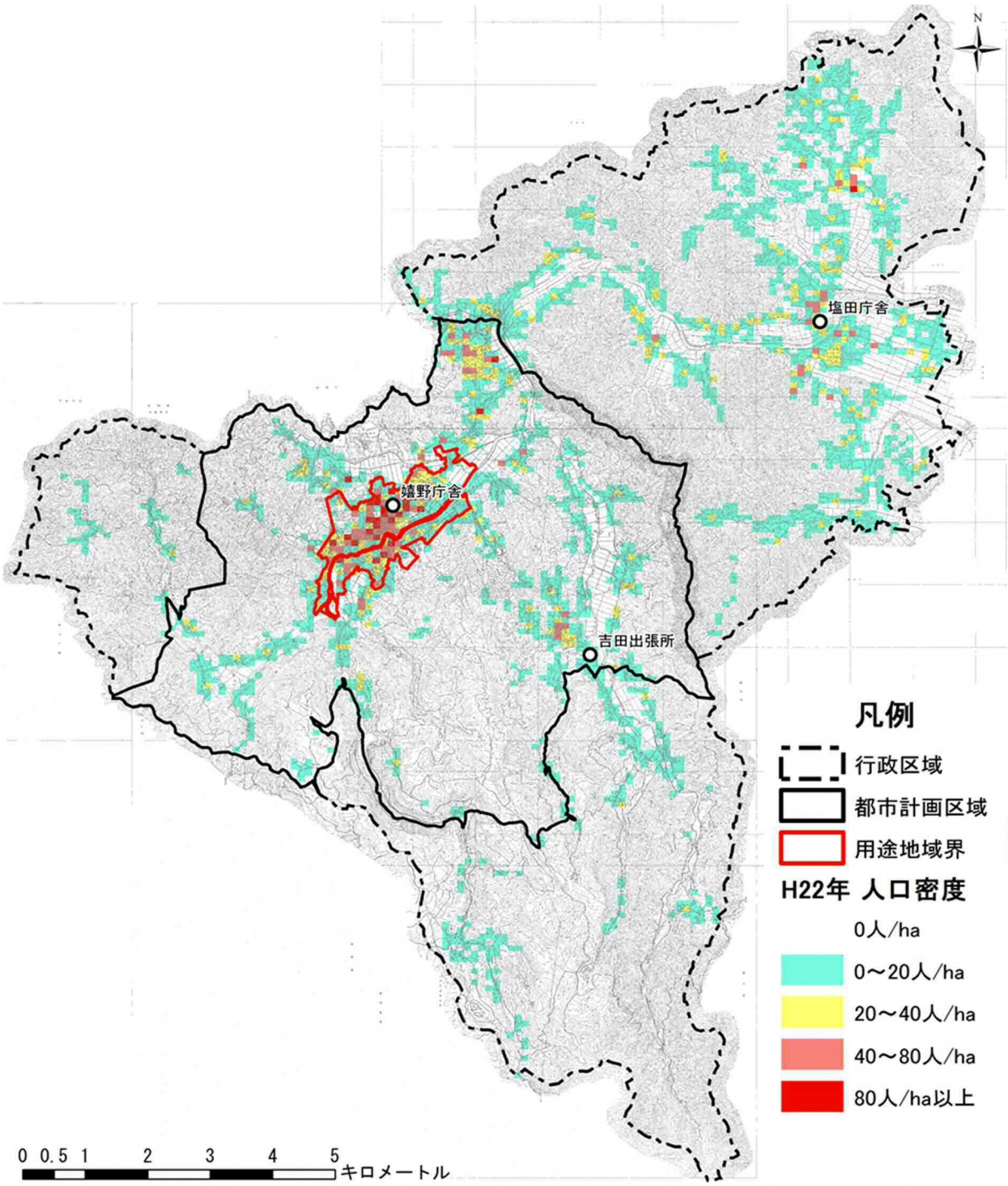
(1)　地区別人口

●H22 では、用途地域内で概ね 40 人/ha 以上の地域が多くを占める。（用途地域内 H22 平均：32 人/ha）
●H52 では、用途地域内では概ね 40 人/ha 以上の地域が減少している。（用途地域内 H52 平均：23 人/ha）
●H22～52 年の推移をみると、市全域で減少し、特に用途地域内や塩田庁舎周辺での減少率が特に高い。



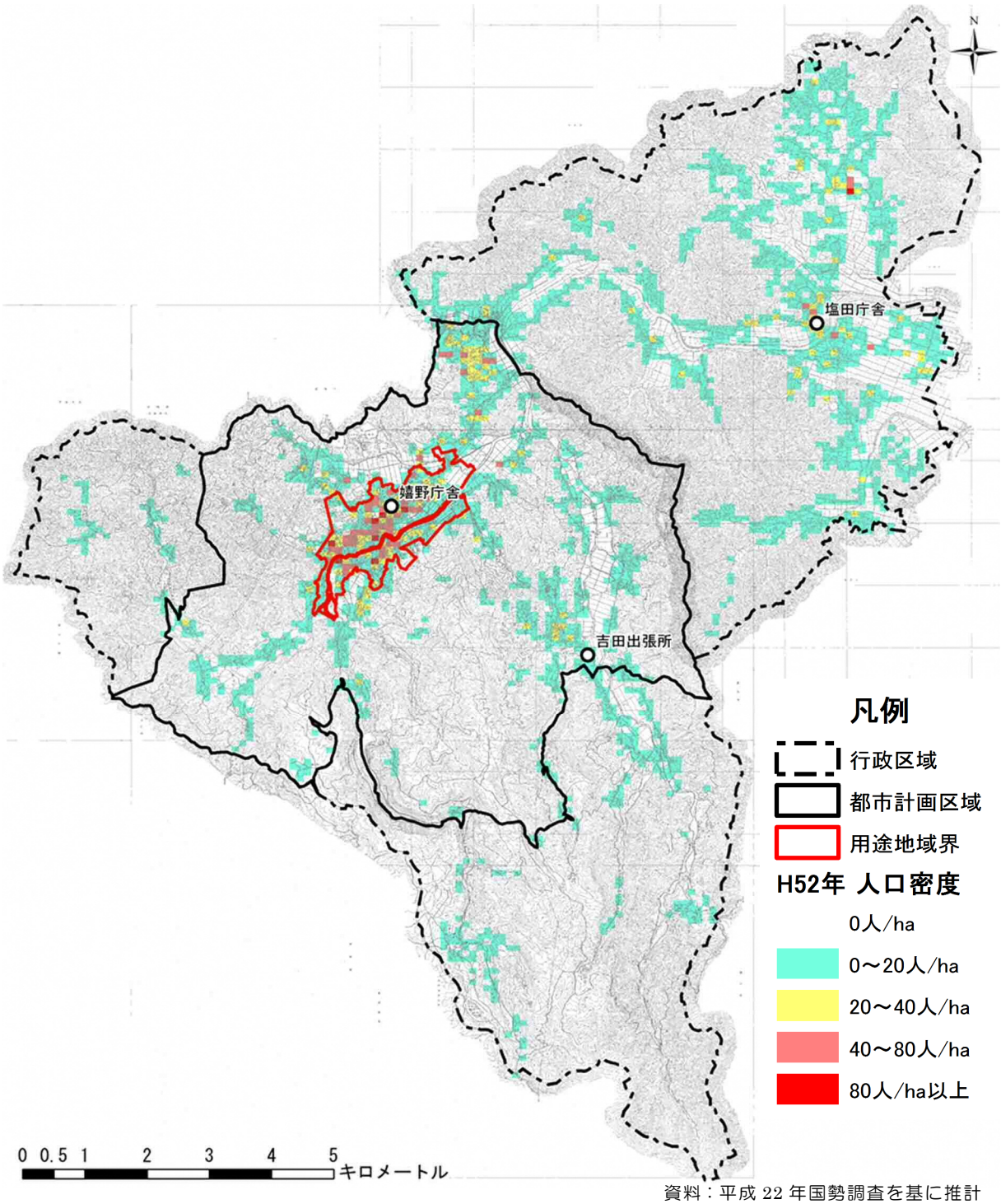
資料：平成 22 年国勢調査を基に推計

図　平成 22～52 年人口増減率



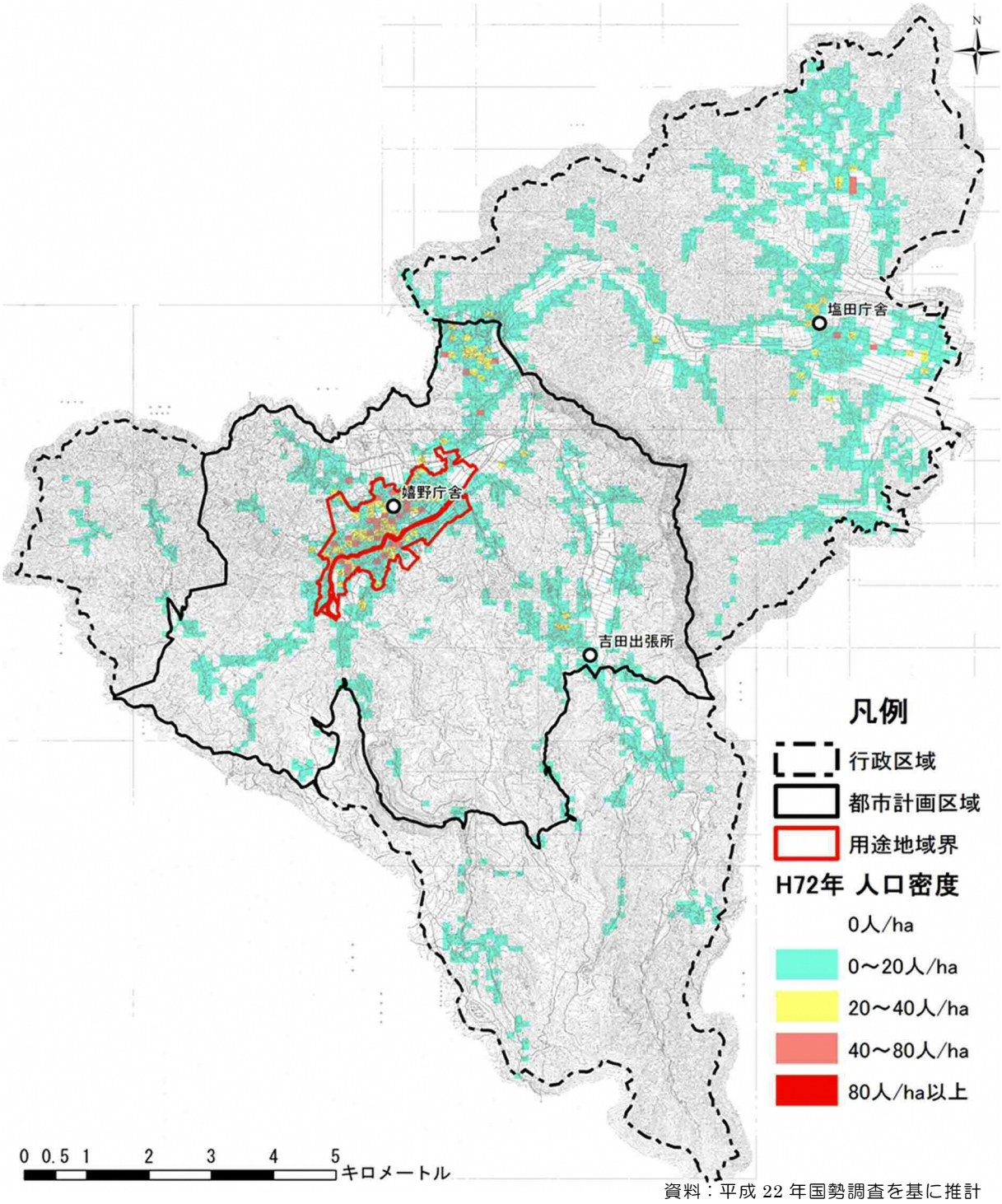
資料：国勢調査

図　平成 22 年人口密度



資料：平成 22 年国勢調査を基に推計

図　平成 52 年人口密度

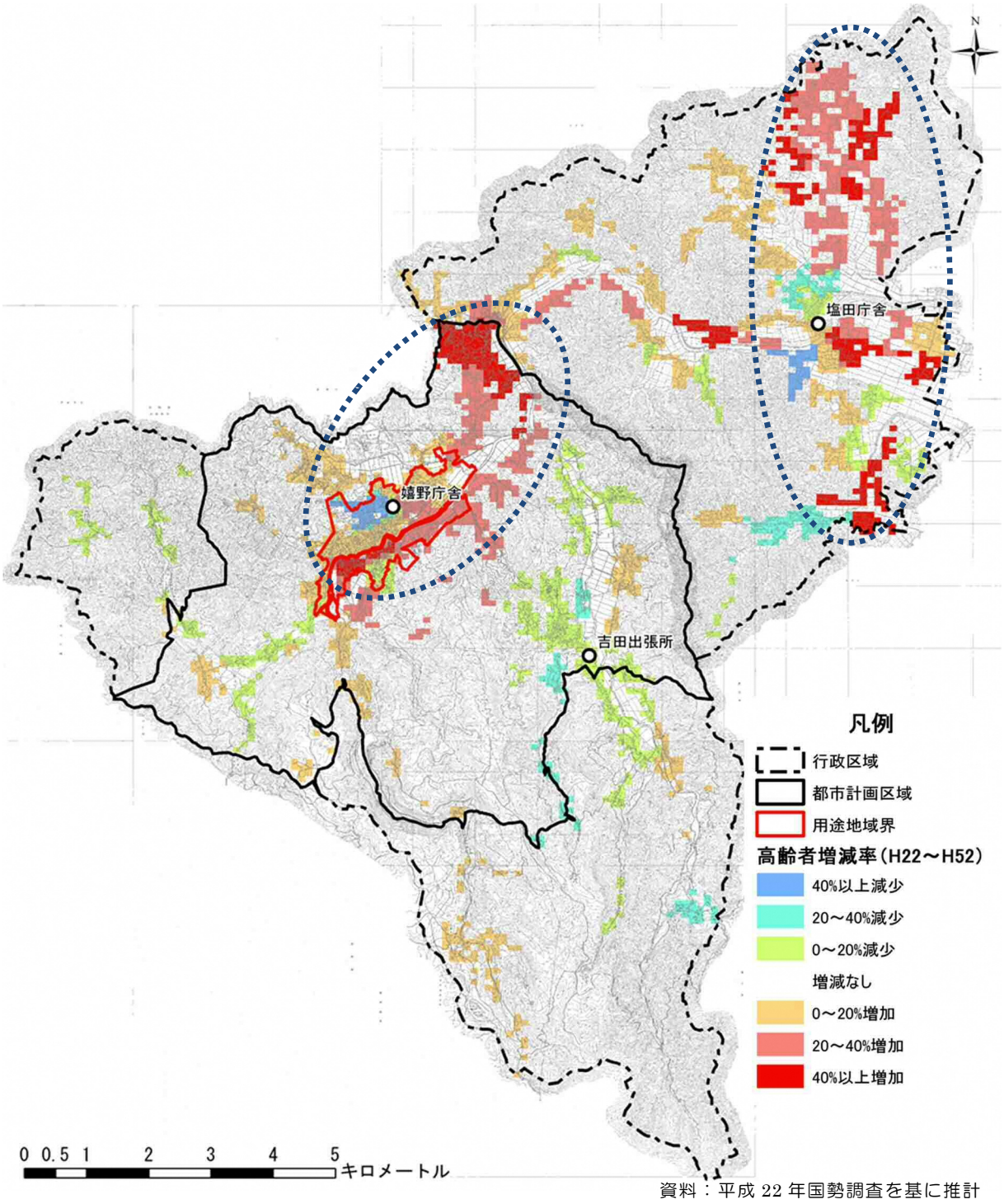


資料：平成 22 年国勢調査を基に推計

図　平成 72 年人口密度

(2) 地区別高齢者人口

●高齢者人口は、増加する地域が多くなっており、特に用途地域周辺や塩田地域の東側で増加率が高くなっている。



資料：平成 22 年国勢調査を基に推計

図　平成 22～52 年高齢者人口増減率

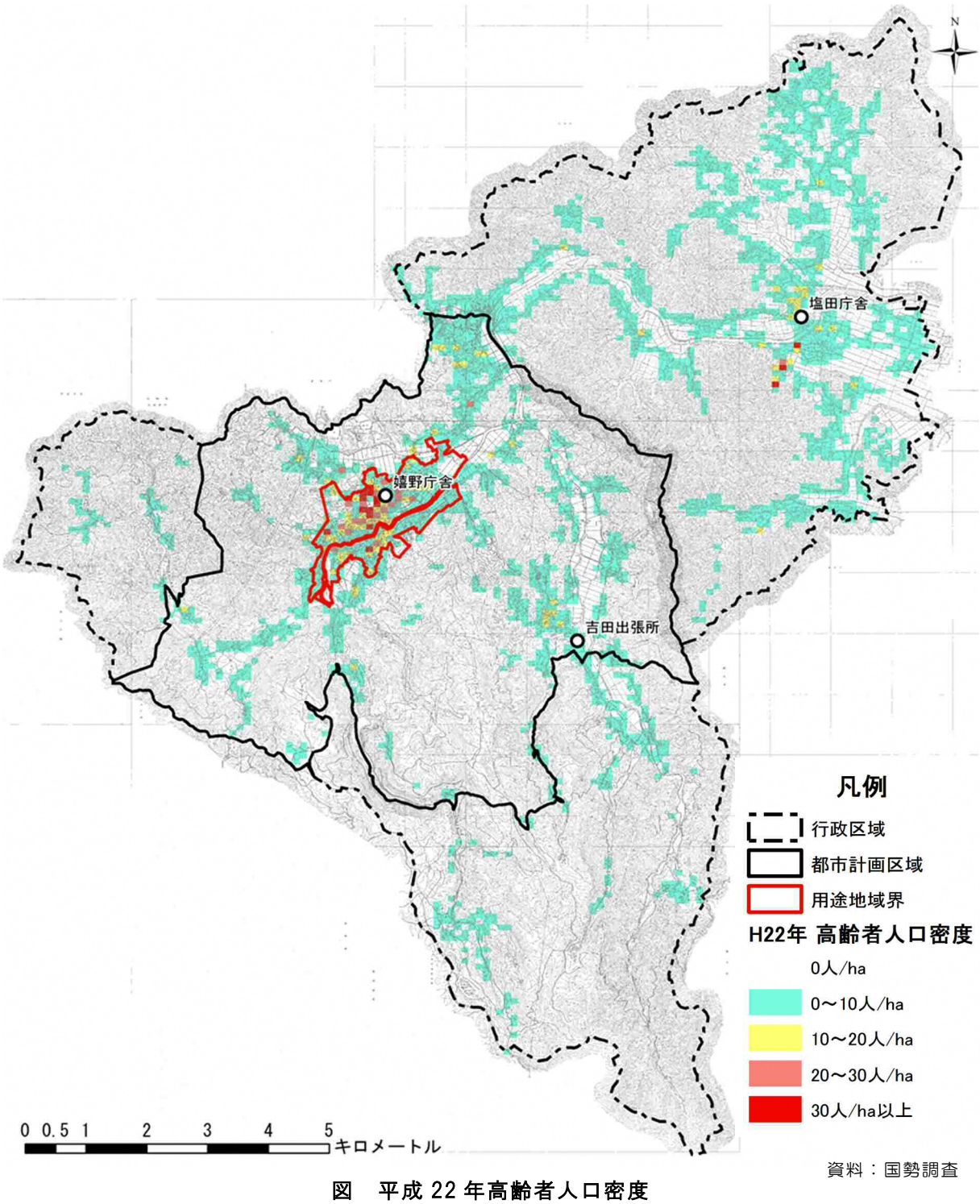
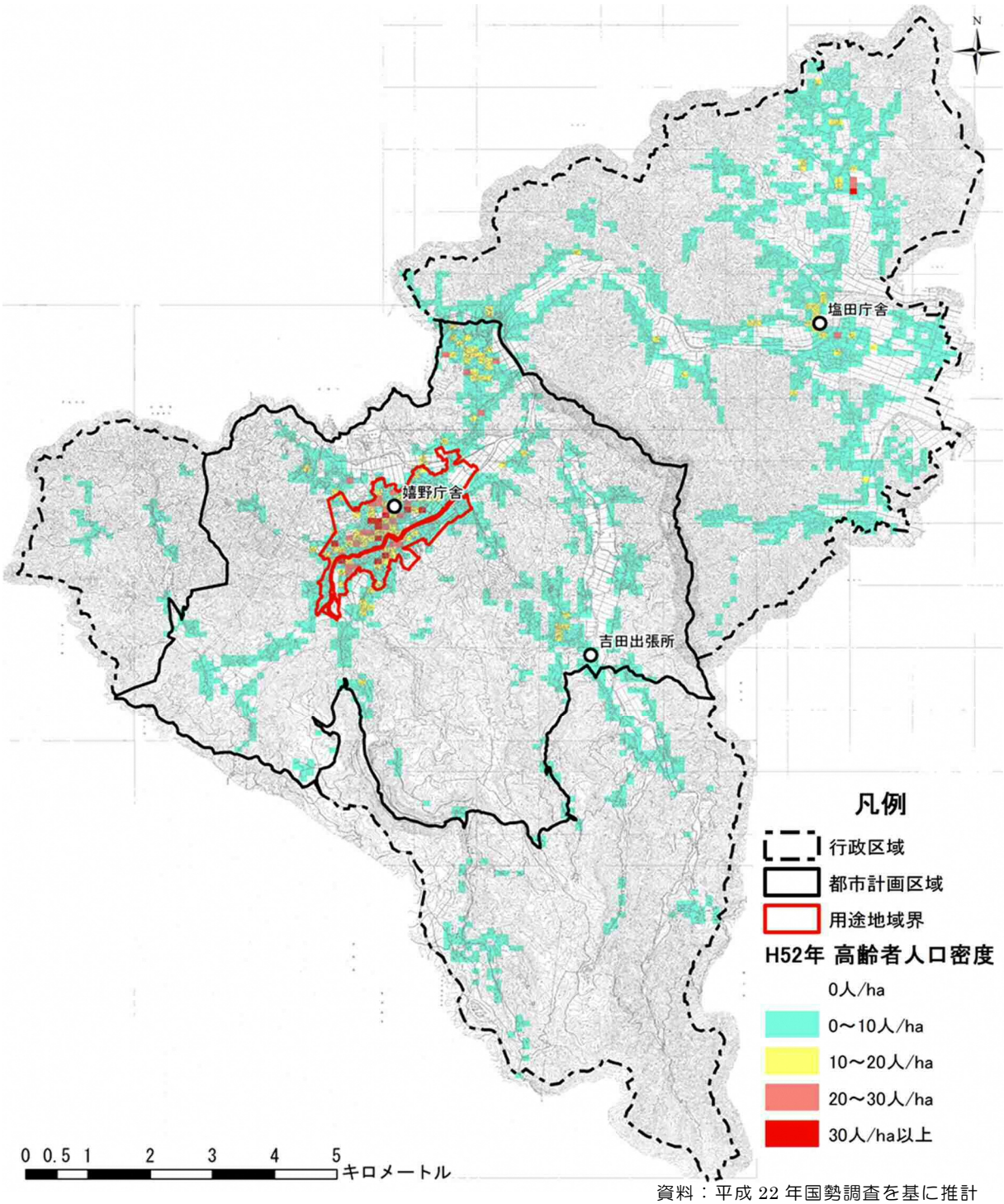
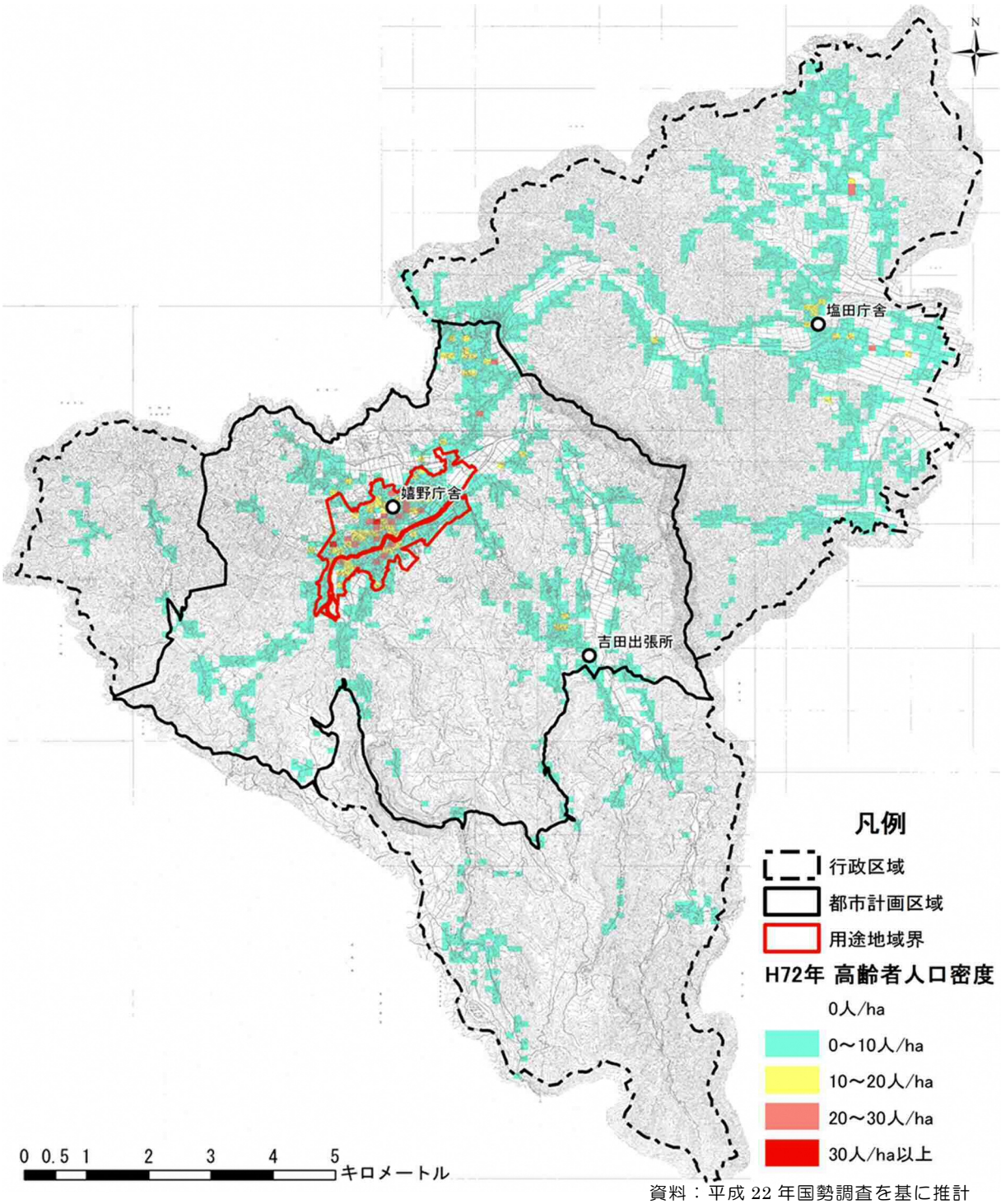


図　平成 22 年高齢者人口密度



資料：平成 22 年国勢調査を基に推計

図　平成 52 年高齢者人口密度



資料：平成 22 年国勢調査を基に推計

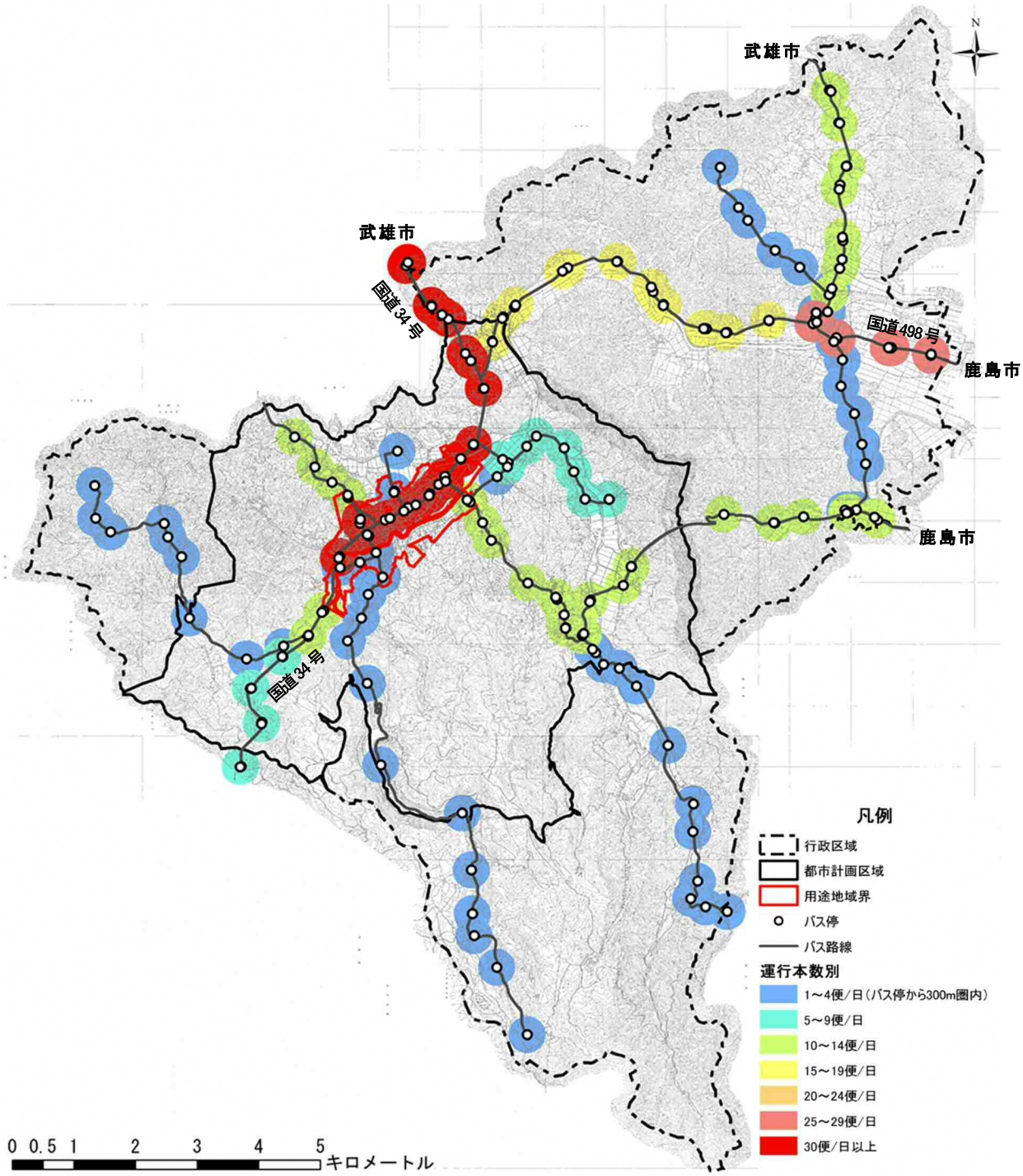
図　平成 72 年高齢者人口密度

2． 生活サービス施設の利便性・持続性

(1) 公共交通路線と人口分布

①公共交通の利便性

●路線バスは、嬉野バスセンターや塩田庁舎を中心に国道 34 号、498 号等の幹線道路を運行している。
●用途地域から武雄市方面に伸びる国道 34 号で運行本数が多く、30 便/日以上運行されている。



資料：各社時刻表等より集計

図 公共交通の利便性

②公共交通の持続可能性

- ●「公共交通利便地域」に居住する人口は、全体の約 25%。
- ●「公共交通不便地域」に居住する人口は、全体の約 43%。
- ●「公共交通利便地域」でも人口減少が予測されている。
- ●「交通空白地域」が存在している。

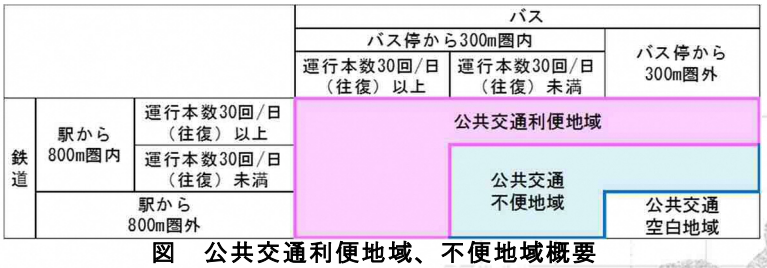


図　公共交通利便地域、不便地域概要

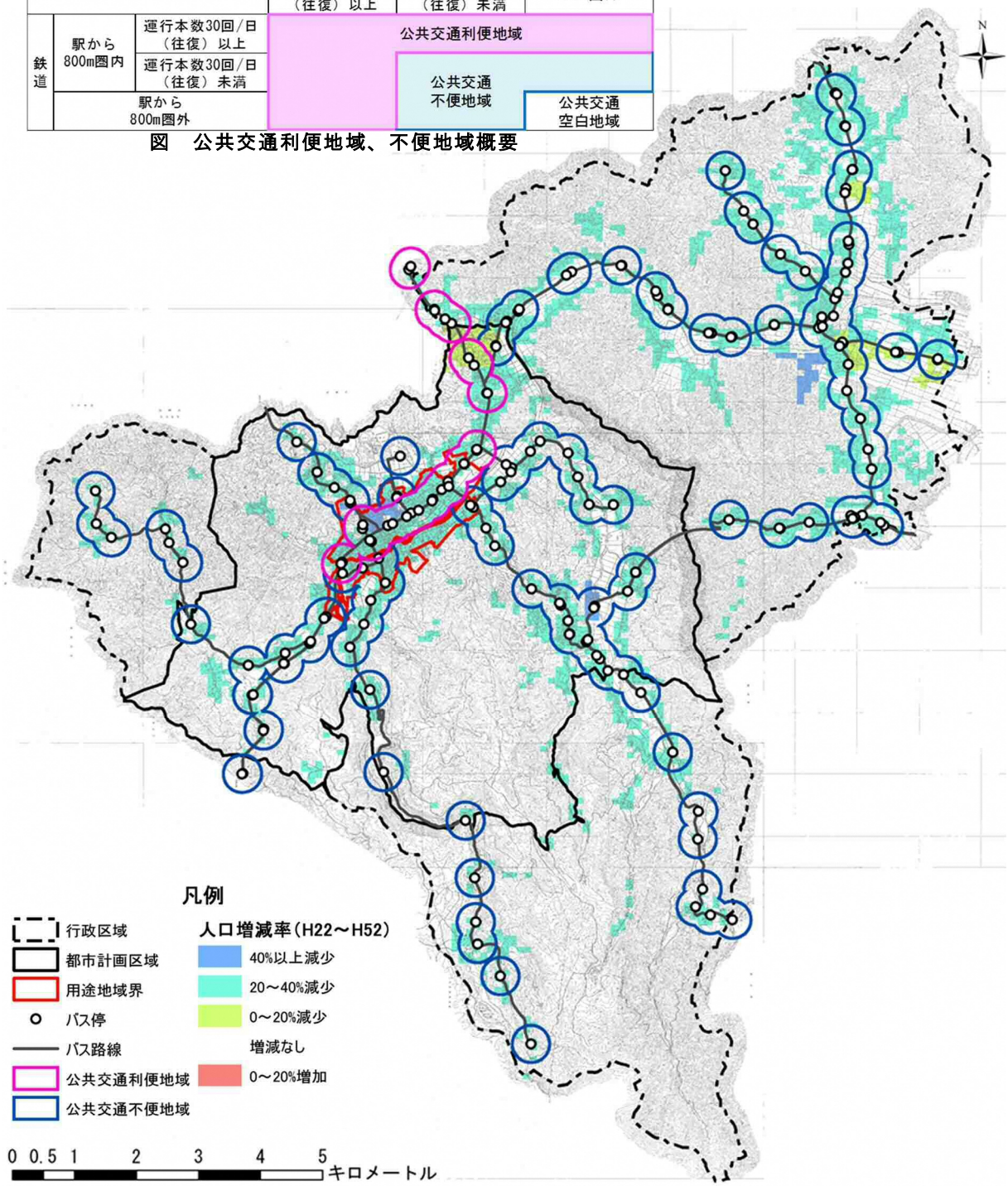


図　公共交通の利便性と将来人口増減（平成 22～52 年）

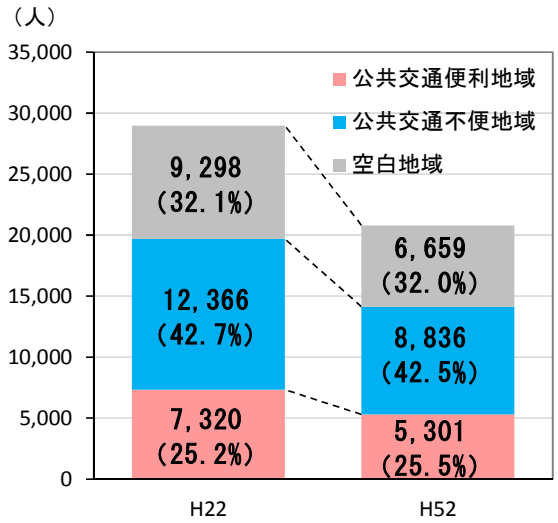


図　公共交通利便地域、不便地域人口

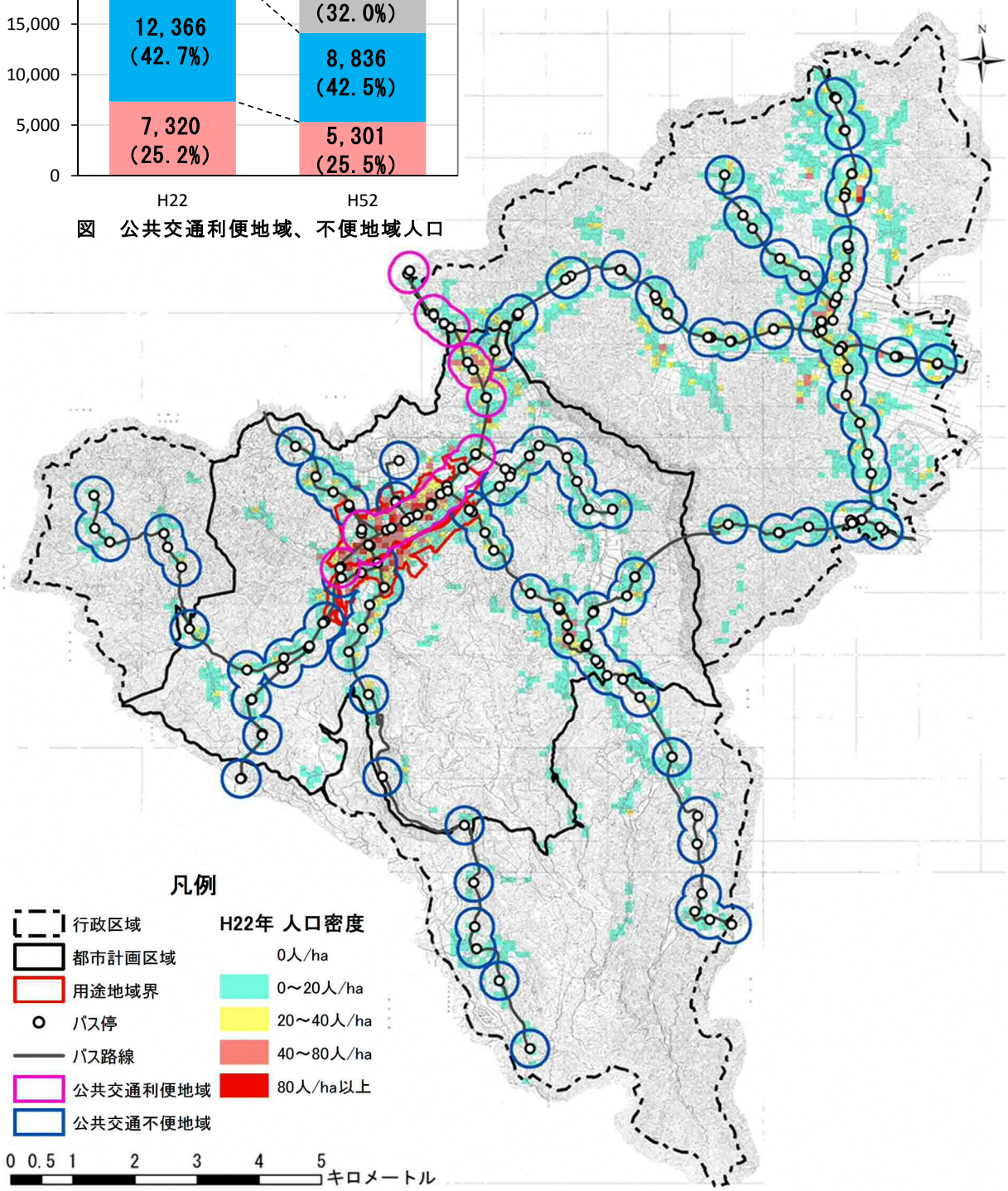


図　公共交通と地域別人口（平成 22 年）

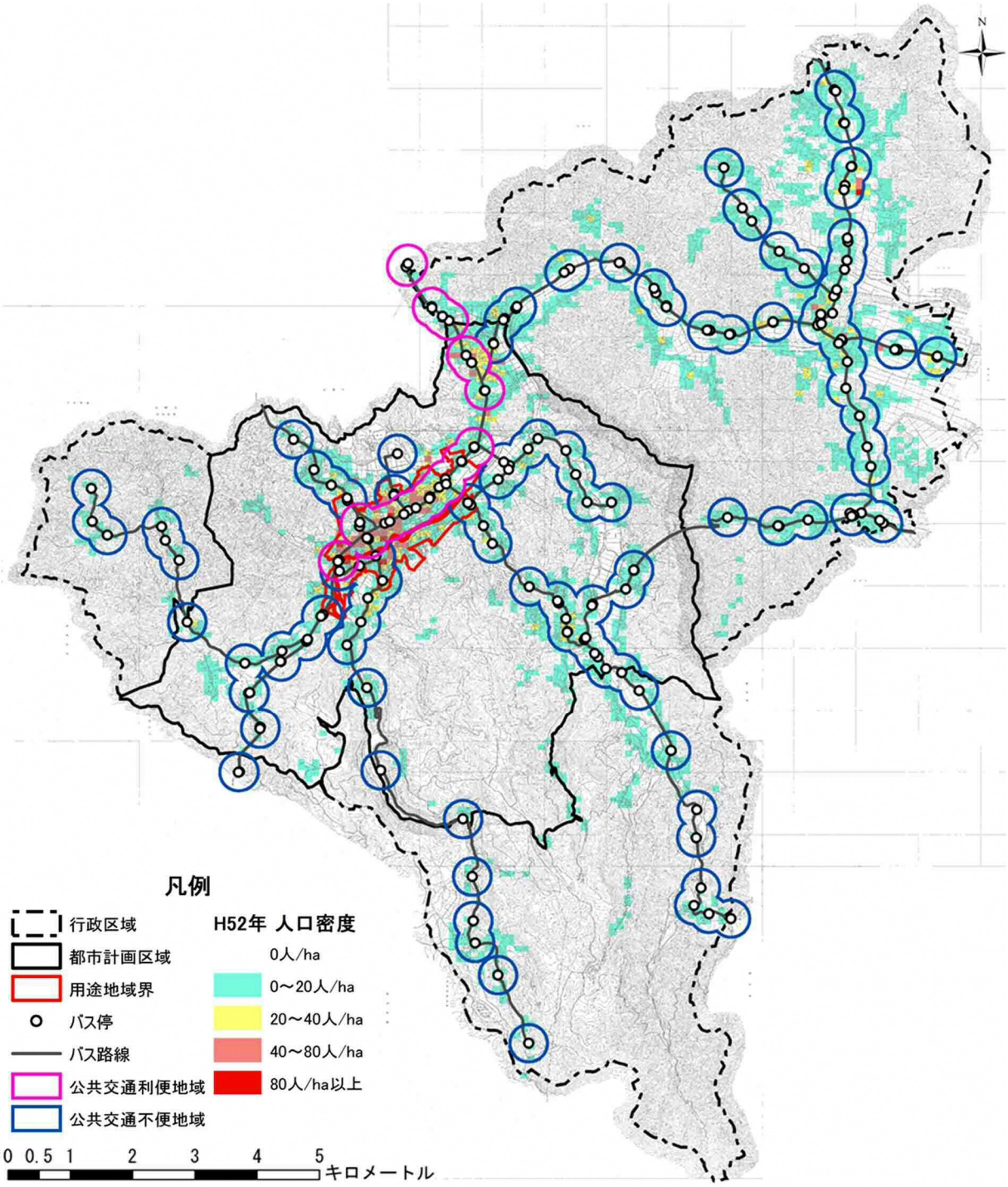


図　公共交通と地域別人口（平成 52 年）

(2) 生活サービス施設の配置と人口分布

①医療

●医療施設の多くは、人口の集積している用途地域内や塩田庁舎周辺に集中しているが、施設周辺の人口密度の低下が見込まれる。

図　医療施設の利用圏カバー人口

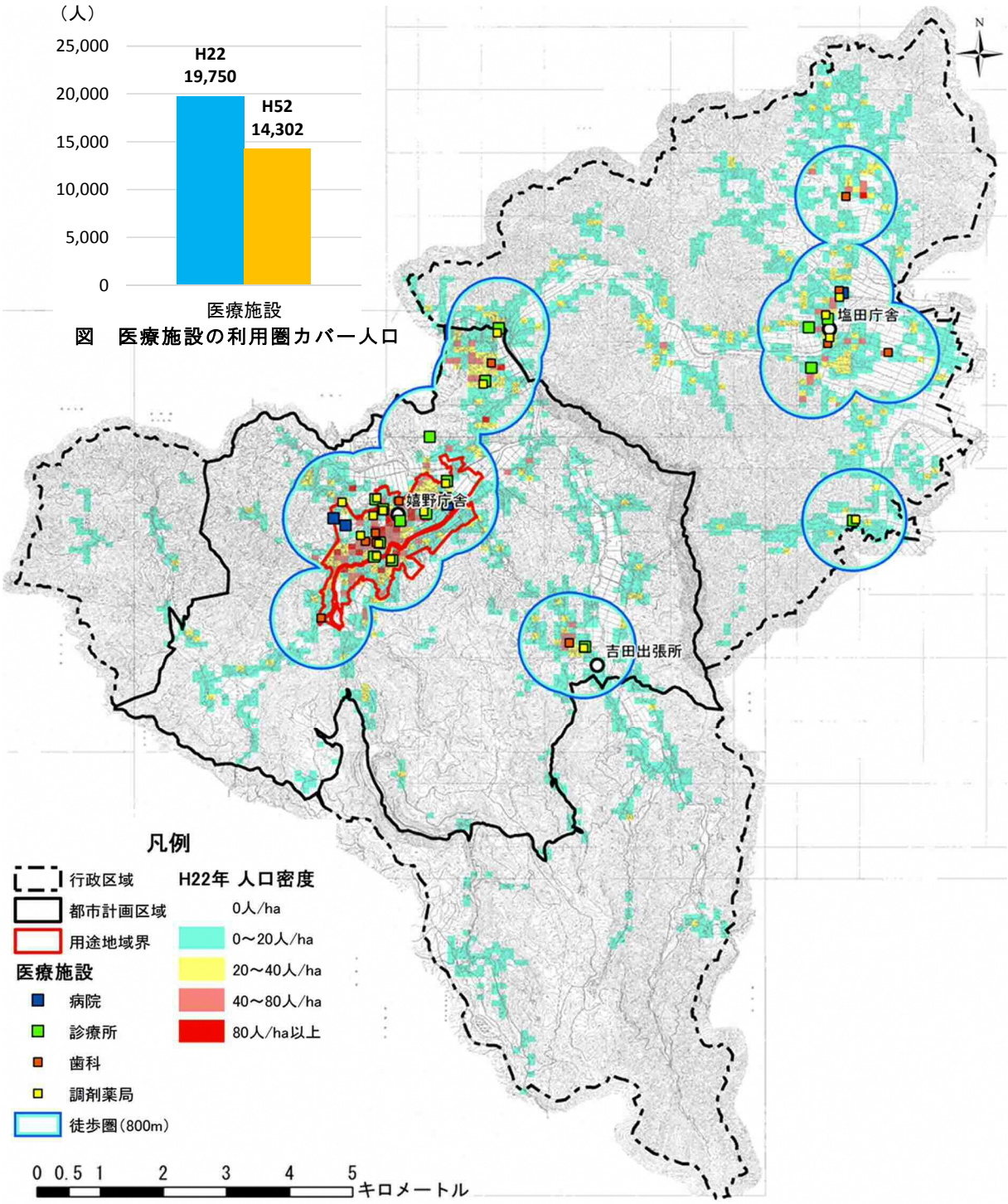


図　医療施設の徒歩圏人口（平成 22 年）

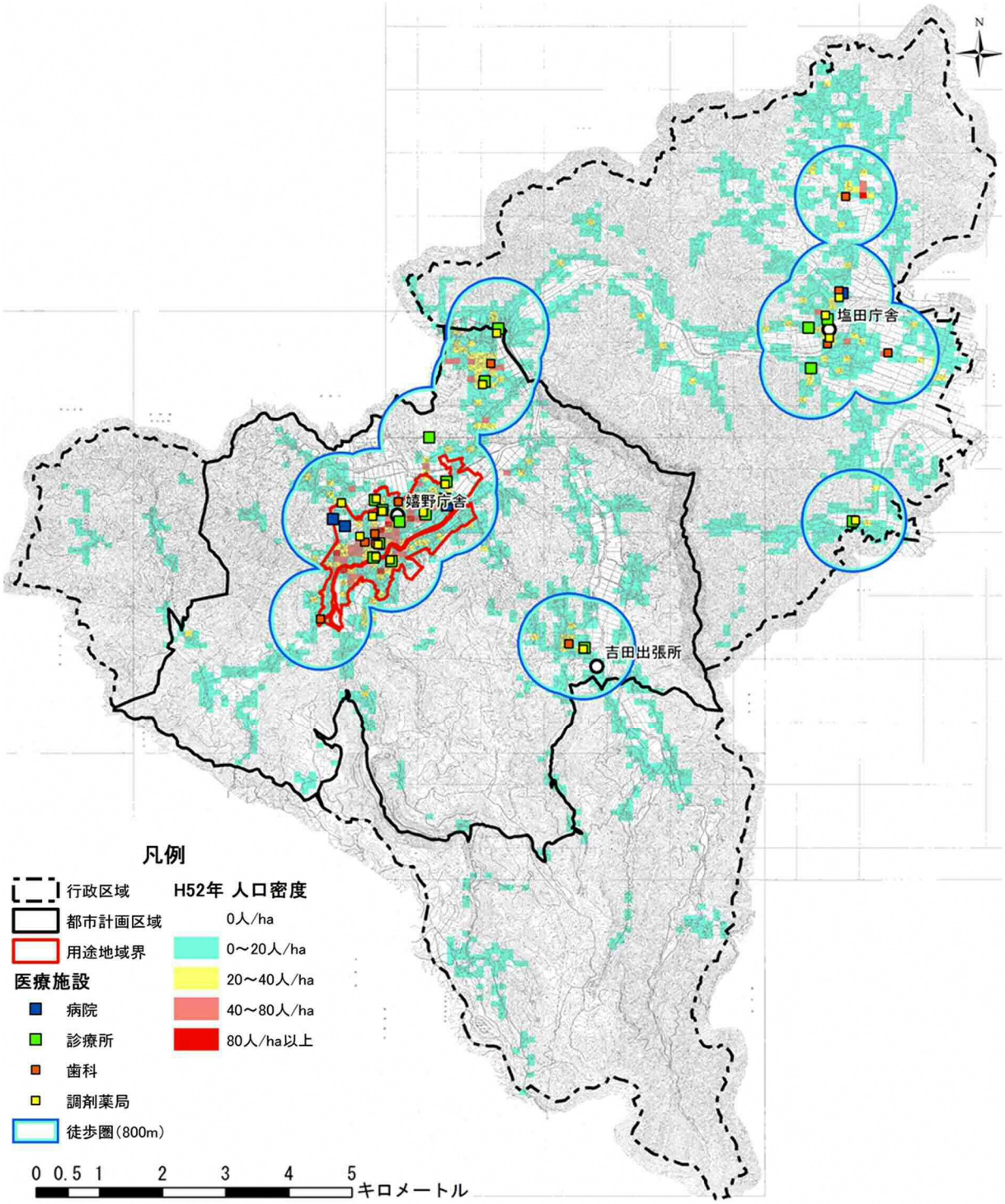


図　医療施設の徒歩圏人口（平成 52 年）

②福祉

●福祉施設の多くは、人口の集積している用途地域周辺に集中しているが、施設周辺での人口密度の低下が見込まれる。

図　福祉施設の利用圏カバー人口

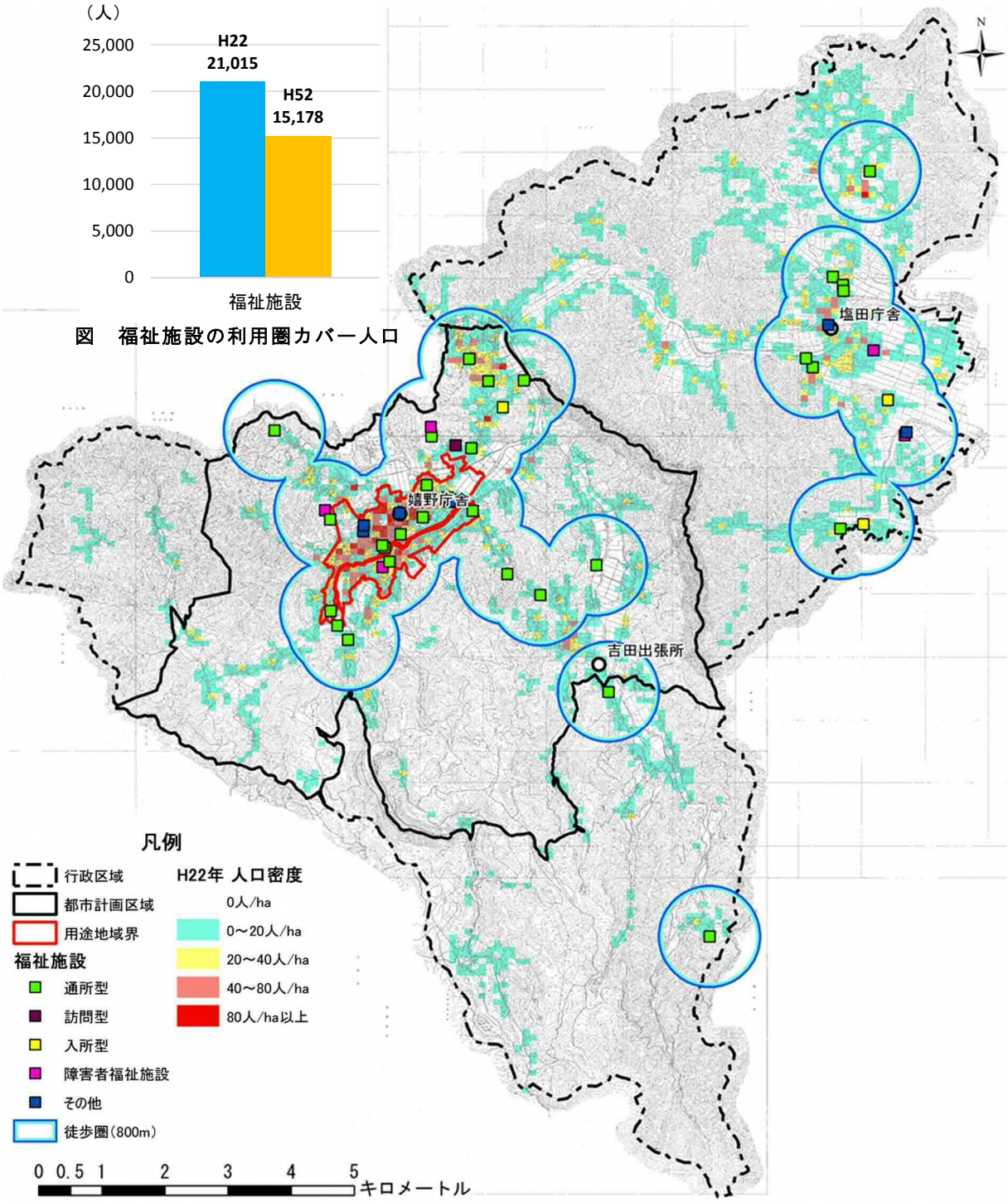


図　福祉施設の徒歩圏人口（平成 22 年）

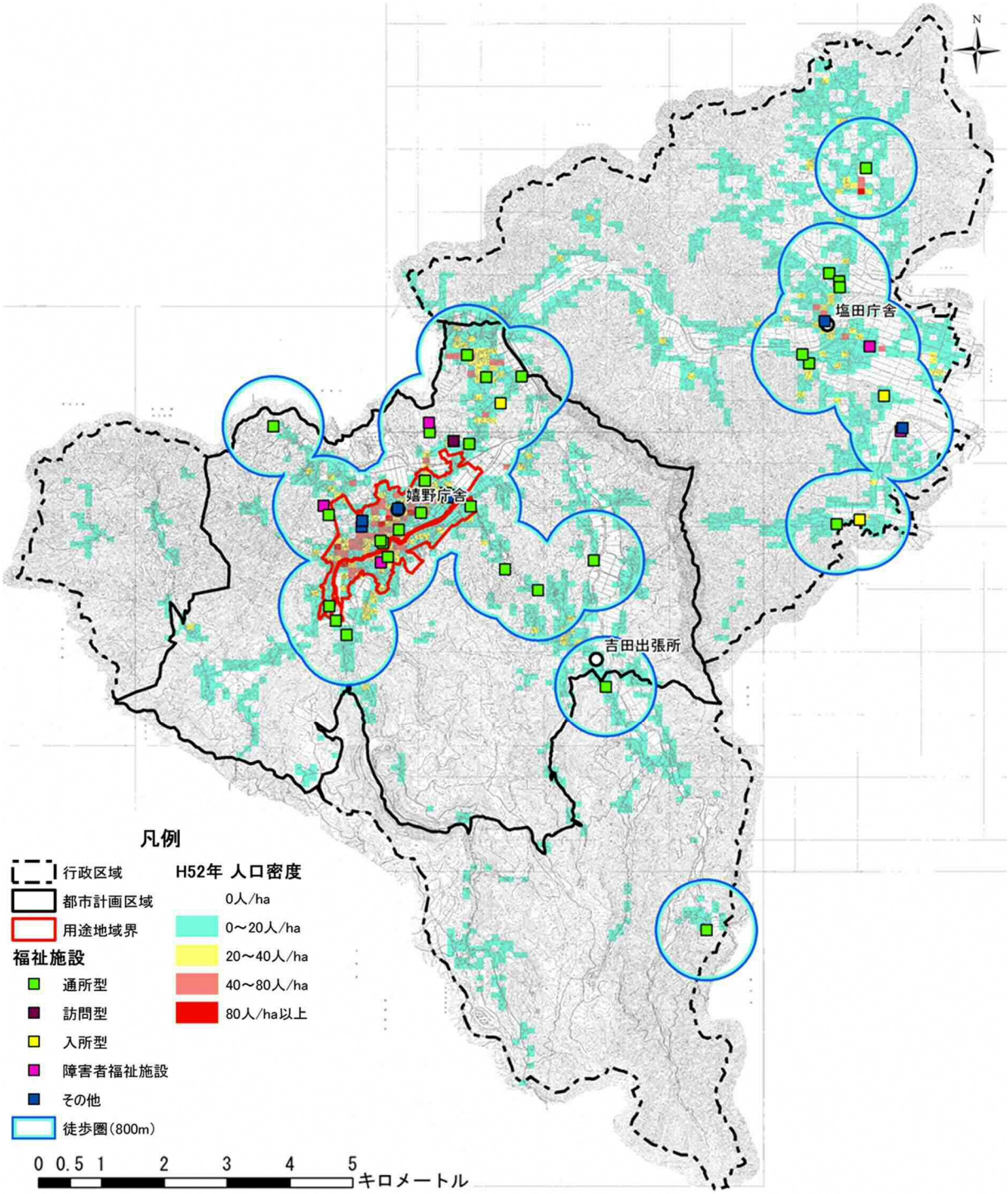


図　福祉施設の徒歩圏人口（平成 52 年）

③商業

●商業施設の多くは、人口の集積している市街地に集中しているが、商業施設周辺での人口密度の低下が見込まれる。

図　商業施設の利用圏カバー人口

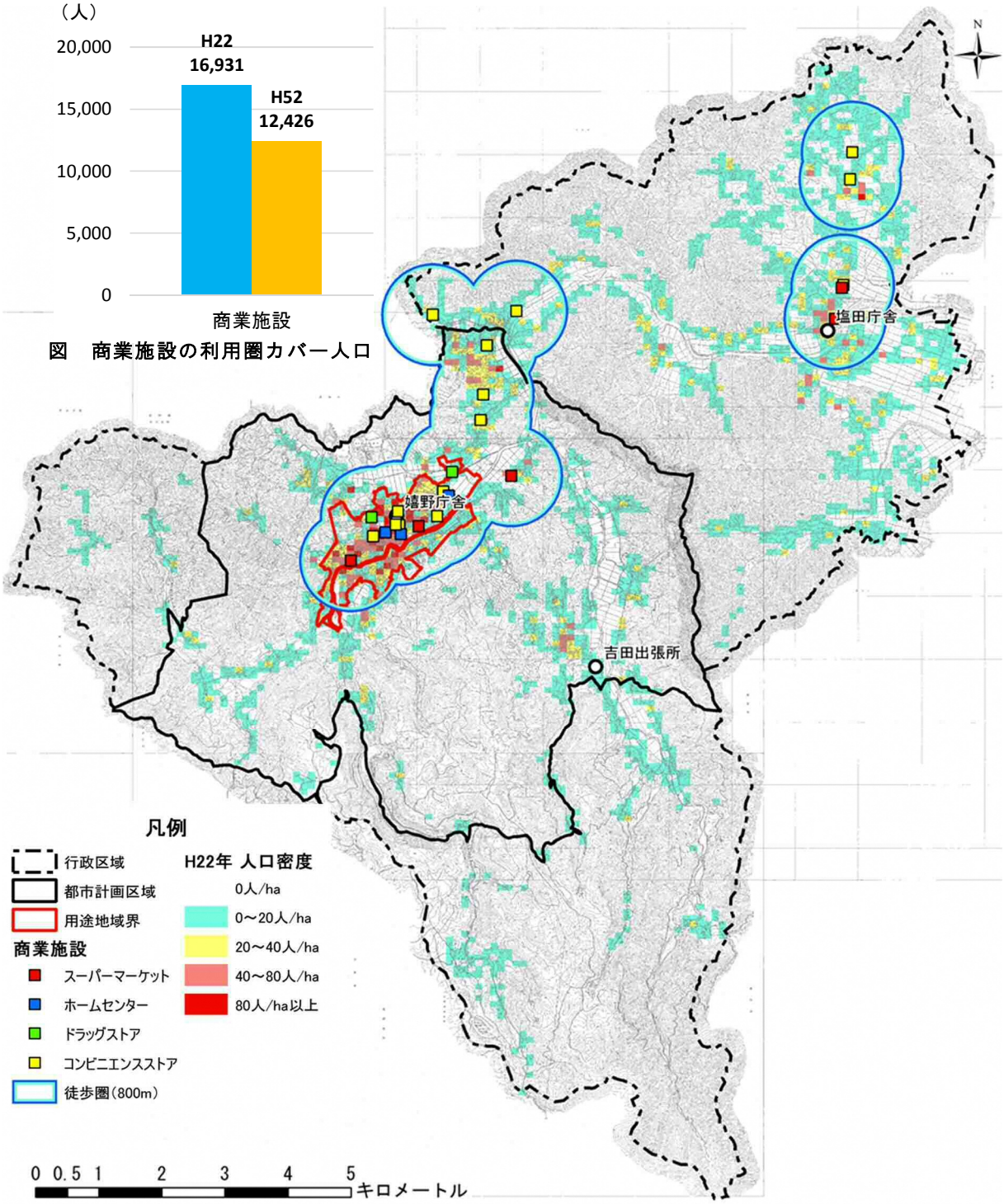


図　商業施設の徒歩圏人口（平成 22 年）

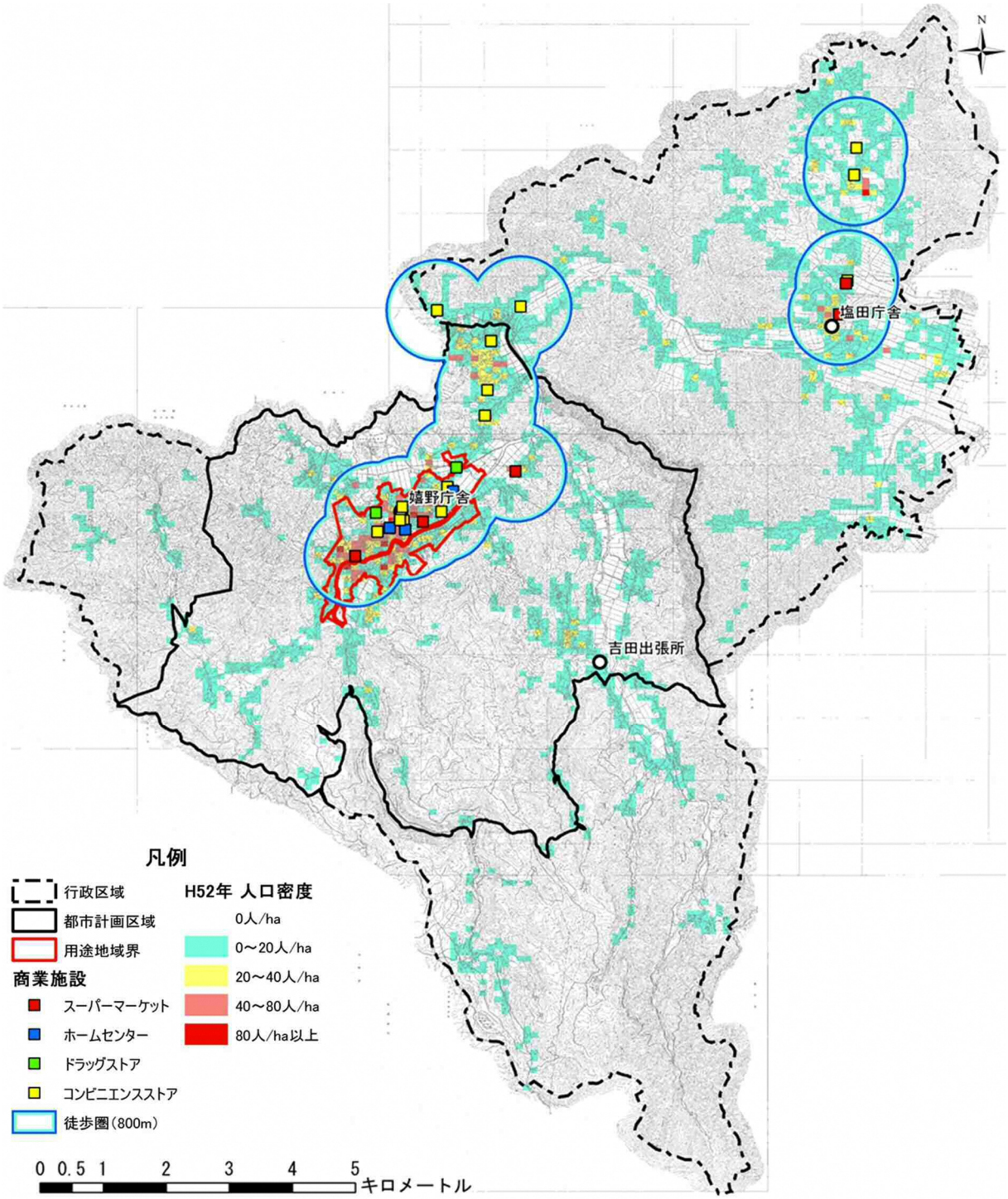
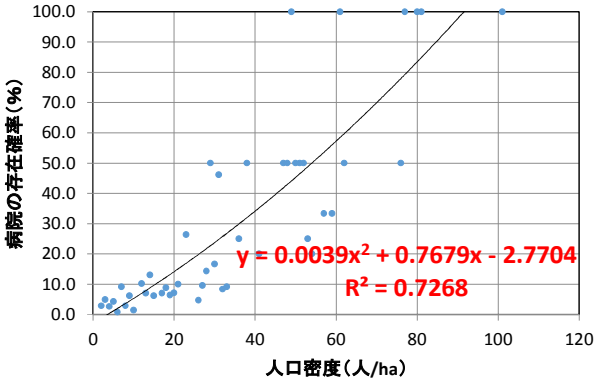


図　商業施設の徒歩圏人口（平成 52 年）

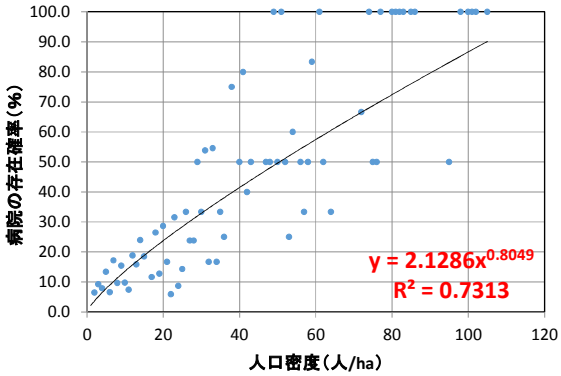
(3) 施設別存在確率

①医療施設（病院、診療所）

●人口密度が高いほど存在確率は高くなる。
●病院の存在確率（人口密度階層別の確率）は、人口密度が 40 人/ha の場合、徒歩圏 500m、800m ともに 40%程度となっている。
●診療所の存在確率は、人口密度が 40 人/ha の場合、徒歩圏 500m では約 55%、徒歩圏 800m では約 80%となっており、徒歩圏 800m の方が存在確率が高い。

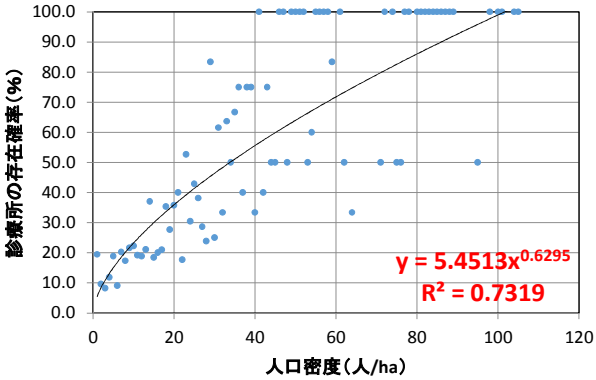


徒歩圏 500m

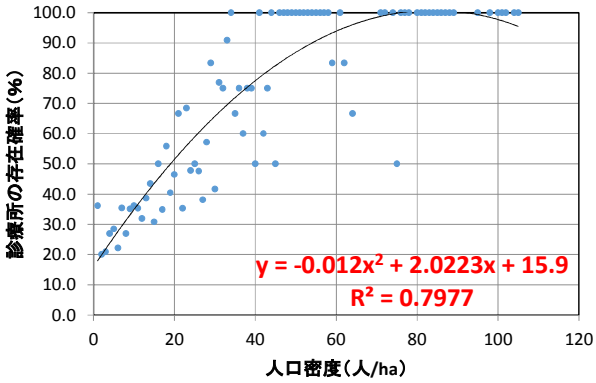


徒歩圏 800m

図　病院の存在確率【メッシごとの徒歩圏内に病院が 1 施設以上存在する確率】



徒歩圏 500m

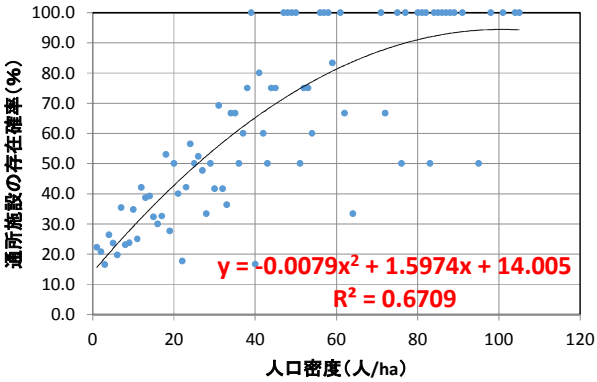


徒歩圏 800m

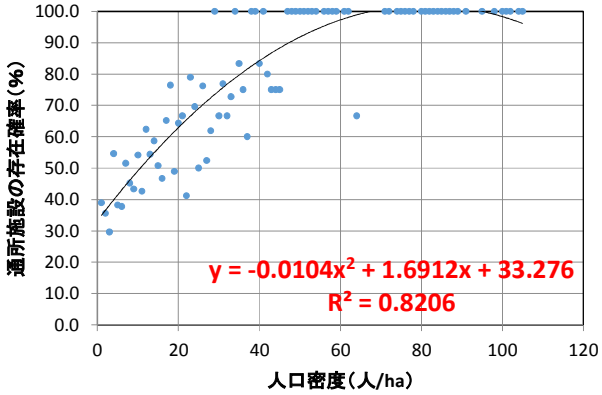
図　診療所の存在確率【メッシごとの徒歩圏内に診療所が 1 施設以上存在する確率】

②高齢者福祉施設（通所施設）

●高齢者福祉施設の存在確率は、人口密度が 40 人/ha の場合、徒歩圏 500m では約 65%、徒歩圏 800m では約 85%となっており、徒歩圏 800m の方が存在確率が高い。



徒歩圏 500m



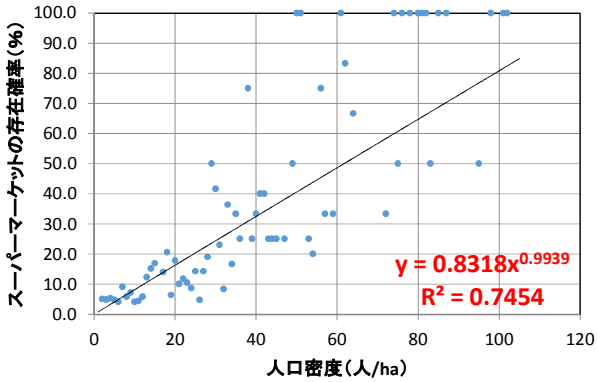
徒歩圏 800m

図　高齢者福祉施設（通所施設）の存在確率

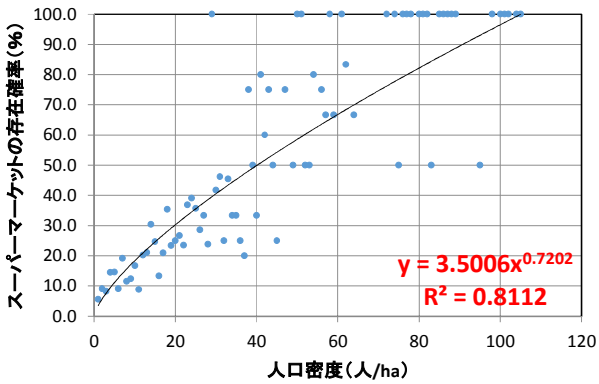
【メッシごとの徒歩圏内に通所施設が 1 施設以上存在する確率】

③商業施設（スーパーマーケット）

●スーパーマーケットの存在確率は、人口密度が 40 人/ha の場合、徒歩圏 500m では約 30%、徒歩圏 800m では約 50%となっており、徒歩圏 800m の方が存在確率が高い。



徒歩圏 500m



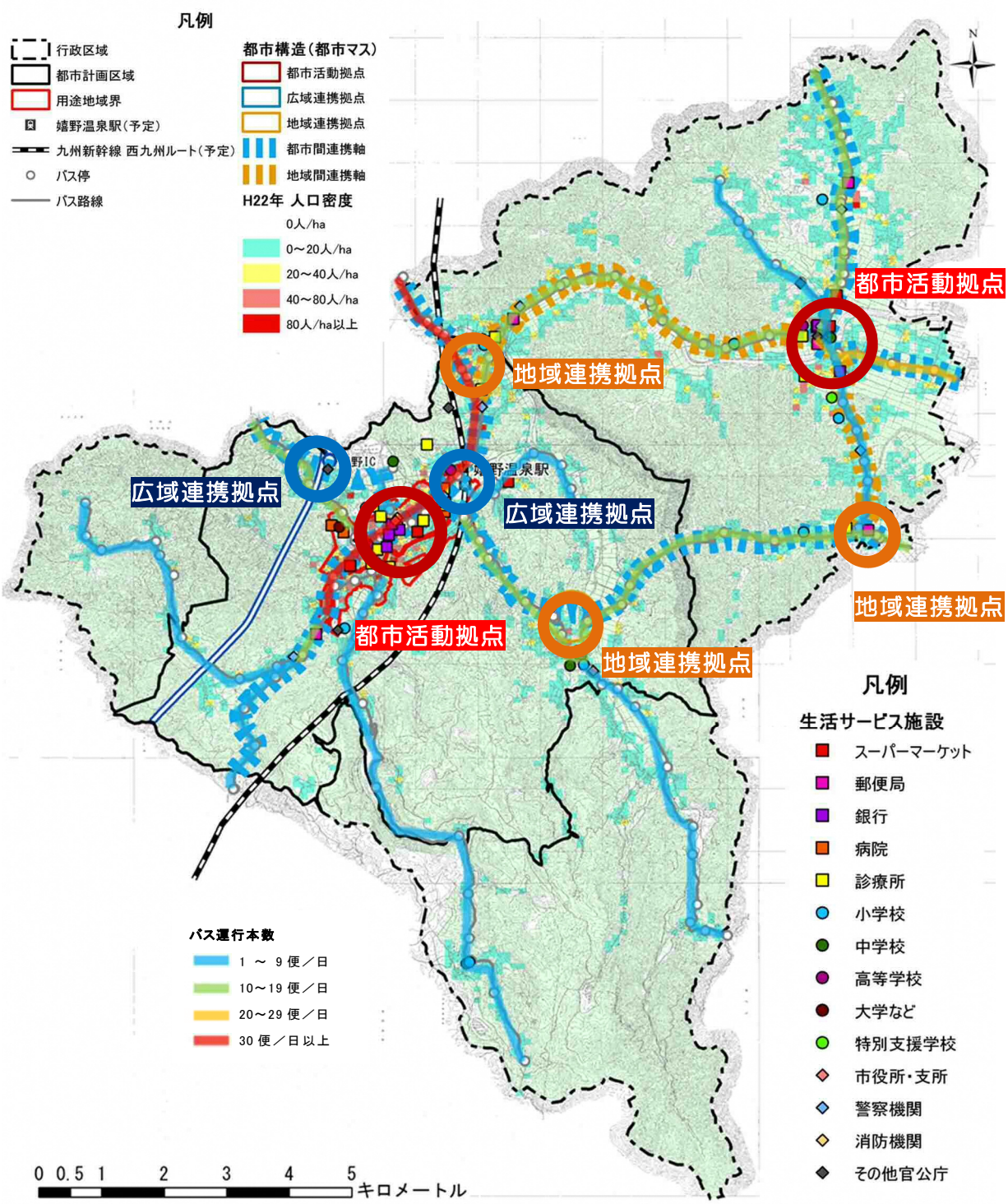
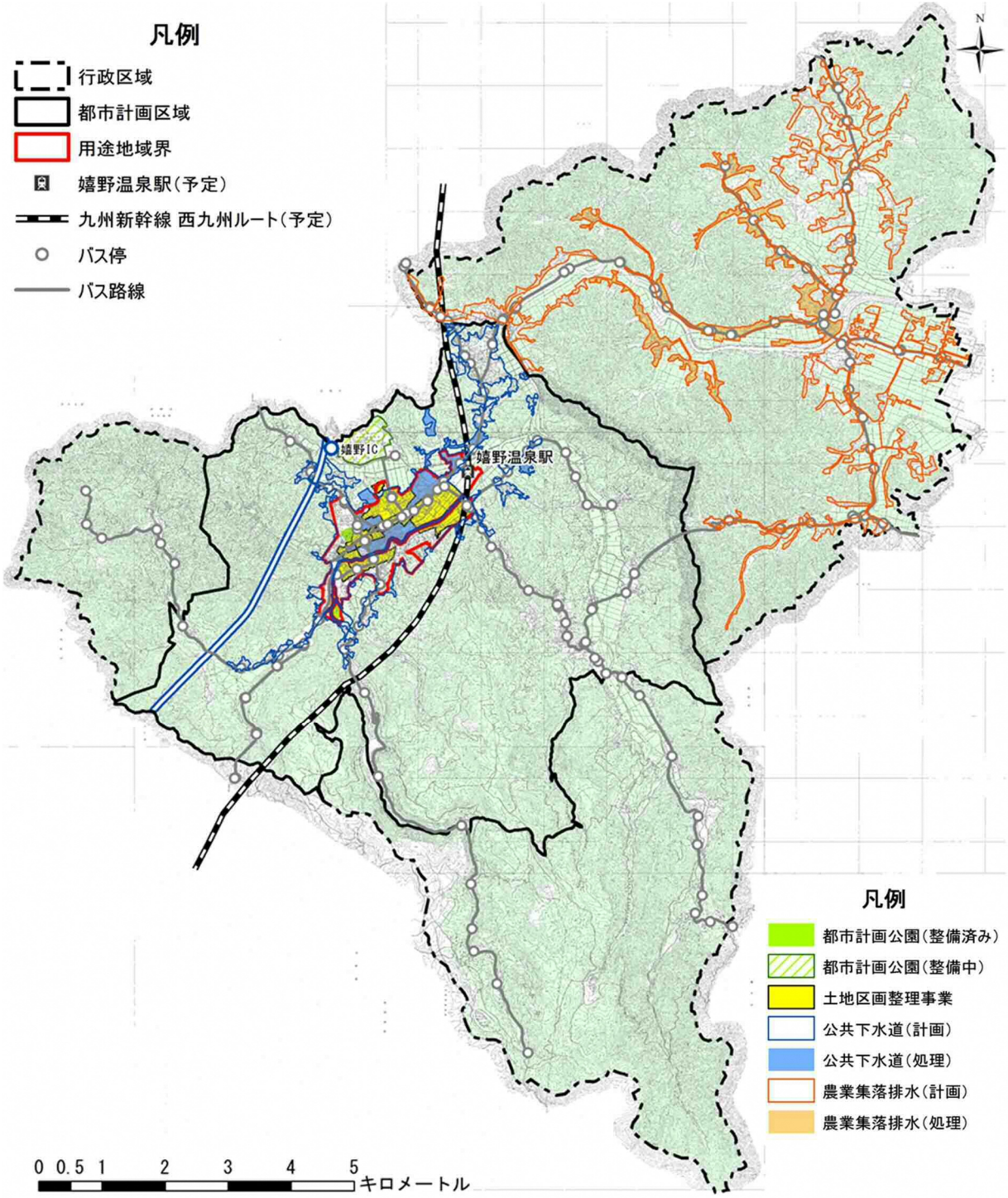
徒歩圏 800m

図　スーパーマーケットの存在確率

【メッシごとの徒歩圏内にスーパーマーケットが 1 施設以上存在する確率】

3． 現況都市構造の整理

●施設の立地状況や交通ネットワークを踏まえ、都市計画マスタープランにおいて将来都市構造図が設定されている。



●用途地域内では土地区画整理事業や公共下水道事業、都市計画公園などが整備されているが、未整備区域も残る。
●塩田庁舎周辺の一部で農業集落排水が整備されている。